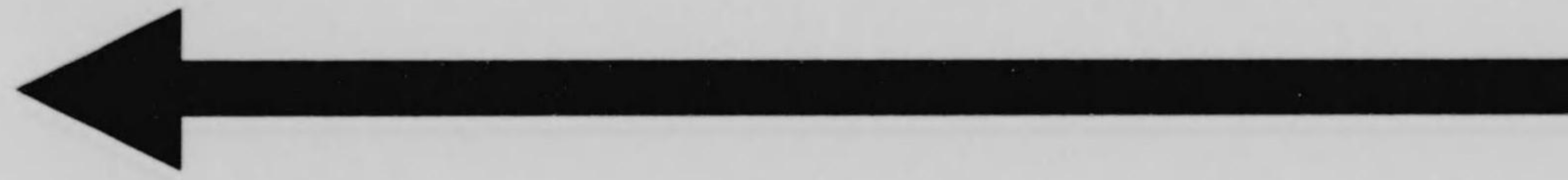
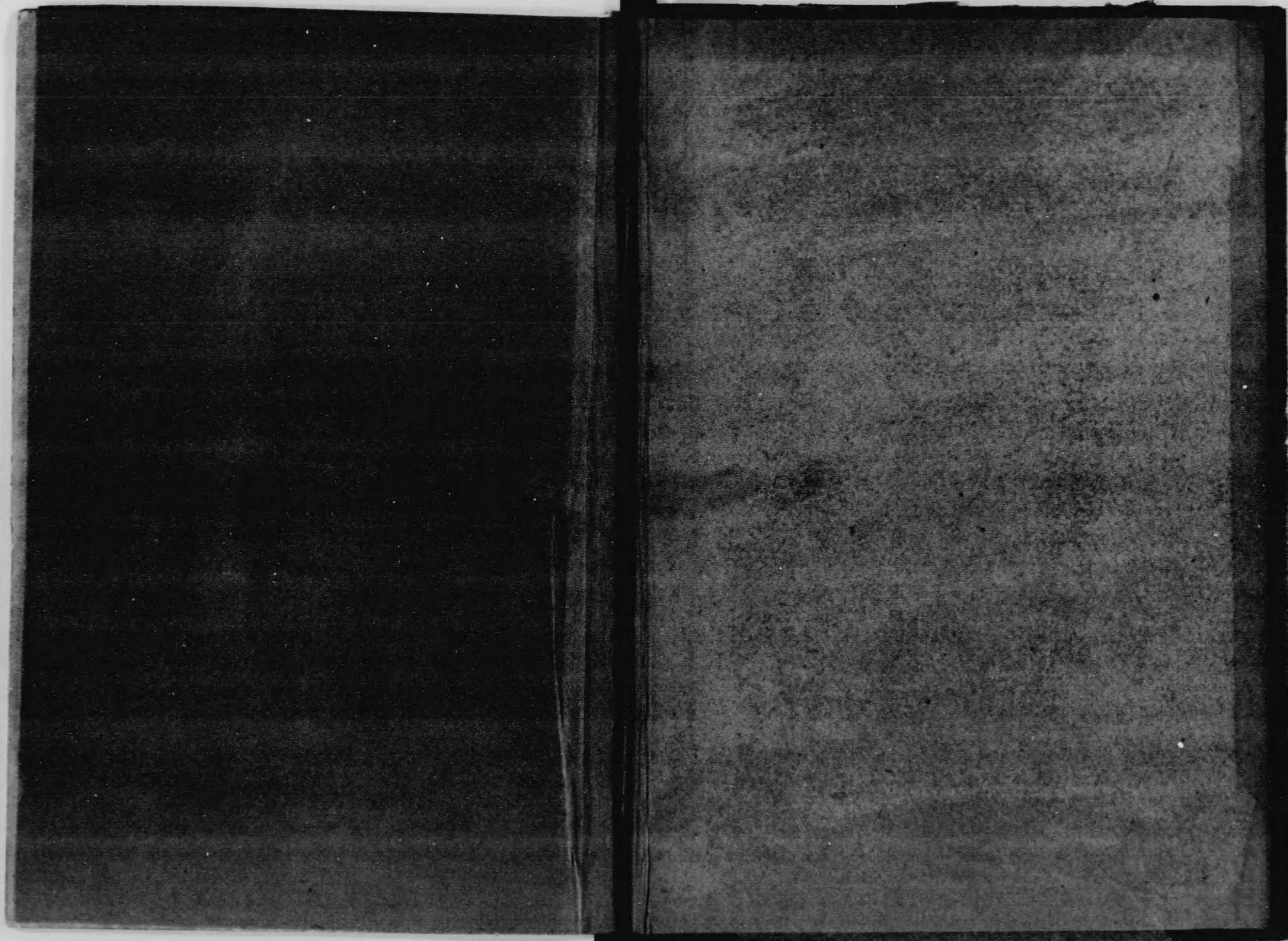


378
64



始





大正八年七月

臺灣製帽業ノ現況及改善策

(以印刷代謄寫)

臺灣銀行調查課

378-64



帽業ノ現況及改善策

〇 行寄贈本

大正
8.9.10
寄贈

本書ハ飯澤田里兩書記ノ調査ニ基
キ更ニ田里書記ヲシテ實地調査ヲ
爲サシメ編述セシメタルモノトス



臺灣製帽業ノ現況及改善策

目次

緒論	一
第一編 現況	三
第一章 本島ノ製帽業	三
第一節 本島製帽業ノ發達	三
一、大甲帽	三
二、林投帽	四
三、紙帽	四
四、製帽業ノ地位	五
第二節 帽子生産額	五
第二章 本邦ニ於ケル本島帽子ノ地位及帽子ノ輸出	九

一、本島帽子ノ本邦ニ於ケル地位.....	九
二、帽子輸出額.....	一〇
三、輸出仕向地.....	一一
第三章 帽子ノ產地.....	一三
第一節 各廳ニ於ケル狀況.....	一三
第二節 各地方ニ於ケル狀況.....	一六
第四章 製帽業者.....	二〇
第五章 製帽職工.....	二三
第六章 帽子ノ編製.....	二五
第一節 原料.....	二五
第二節 帽型.....	二九
第三節 帽子編製法.....	三〇
第七章 工賃.....	三四
第八章 生産費.....	三九

第九章 相場.....	四三
第一節 相場ノ種類.....	四三
第二節 相場.....	四四
一、紙帽一打當込相場.....	四四
二、地方別相場.....	四六
三、等級相場.....	四八
第十章 取引.....	四九
第一節 取引ノ方法.....	四九
第二節 出張員及商館賣込.....	五一
第十一章 帽子ノ移輸出.....	五四
第一節 帽子ノ検査.....	五四
第二節 検査ノ手續及成績.....	五六
第三節 移輸出高.....	五八
第四節 移輸出商.....	六〇

一、島内ニ於ケル移輸出商……………七〇

二、内地ニ於ケル輸出商……………七三

第十二章 金融……………七六

第二編 製帽業改善策……………七六

第一章 帽子編製法ノ改善……………七六

第一節 製帽原料ノ統一……………七六

第二節 原料支給法ノ改善……………七六

第三節 帽子編製技術ノ改善……………七六

第四節 編製上ノ指導及上等帽工賃ノ引上……………七六

第五節 優良職工ノ養成……………七六

一、總督府ノ養成……………七六

二、帽子品評會ノ開催……………七五

第二章 検査手數料ノ輕減……………七五

第三章 運送方法ノ改善……………七七

第四章 産業組合ノ設立……………七九

第一節 産業組合設立ノ利益……………七九

第二節 産業組合設立ノ要點……………八〇

第三節 大甲及通霄帽蓆購買販賣組合ノ狀況……………八五

第五章 同業組合ノ活動及其ノ聯合會ノ設立……………八六

第一節 同業組合ノ現況……………八六

第二節 同業組合ノ活動……………八九

第三節 同業組合聯合會ノ設立……………一〇一

附 錄

第一 製帽業者人名表……………一

第二 製帽職工員數表……………一八

第三 當業者ノ意見……………三〇

一、製帽業改善ニ關スル當業者ノ意見……………三〇

二、對支販路擴張ノ必要……………三三

第四 帽子信用購買販賣組合定款案……………三七

臺灣製帽業ノ現況及改善策

緒論



本島ハ於テ生産セラレル帽子ハ大甲帽林投帽及紙帽ノ三種ニシテ其ノ産額年二
 百萬圓内外ヲ算シ本島ノ工産品中ニ於テ第六位(大正六年)ヲ占メ而モ他ノ工業ト
 其ノ趣ヲ異ニセル獨特ノ産業ナリ即チ本業ハ

工場及機械ヲ要セス從テ工場工業トシテ大資本ヲ要セサルコト

二、技術ハ簡單ニシテ普通帽子三箇ヲ編製スレハ習得シ得ルコト

三、戶外労働ニ堪ヘサル婦女子ト雖ク之ニ堪フルコト

等ノ特色ヲ有スルヲ以テ家内工業ニ適シ本島婦女子ノ職業トシテ獎勵スヘキ産
 業ナリ然ルニ本島ノ製帽業カ近年却テ減退ノ傾向アルハ林投帽漂白ニ要スル藥
 品價格ノ暴騰流行ノ變遷等其ノ原因種々アルヘシト雖主ナルモノヲ戰爭ノ影響
 ト當業者ノ不正競争ト爲ス蓋シ今次ノ大戰ニ依リ世界的船腹ノ不足ヲ告ケ運賃
 保險料暴騰シタルノミナラス各國ハ戰時非常政策ヲ採用シ米國ノ如キハ一時帽

子ノ輸入禁止ヲ爲セリ又獨逸伊太利奧地利匈牙利等ニ對シテモ林投帽ハ全ク輸出杜絶ヲ爲セリ即チ戰爭カ本島製帽業ニ影響ヲ與ヘタルコト鮮少ニアラス然ルニ當業者ノ不正競爭ハ戰爭以上ニ製帽業ヲ不振ニ導キタルモノト爲スコト意見ノ一致スル所ナリ蓋シ本島製帽ノ移出業者ハ最初單ニ内地ノ代理店特約店又ハ取引店ニ向ケ製品ヲ送附スルニ過キサリシカ後ニ至リ自ラ出張員ヲ派遣シタルニ是等出張員ハ眼前ノ利益ニ眩惑シ互ニ相競爭シテ後述スルカ如ク幾多ノ弊害ヲ生シタリ爰ニ於テカ或ハ契約期限ニ至リ生産不足ヲ來シ又ハ見本ト異リタル粗製品ヲ送付スルニ至リ以テ本島製帽ハ漸次信用ヲ失ヒ又製帽業者ハ移出業者ノ引受ケタル低廉ナル註文價格ニ依リ製造ヲ爲シタル爲折角發達セムトセシ製帽業ハ一時却テ其ノ發達ヲ停止スルノ如キ形勢ヲ馴致スルニ至リタルモノトス然ルニ今ヤ平和克復シ戰後生活ノ向上ト共ニ帽子ノ需要益增加スルニ至ルヘキヲ以テ從來本島製帽上ノ缺陷ヲ匡正シ生産費ヲ節約シ取引ヲ簡省ナラシメ以テ之カ改善發達ヲ期スルコト本島産業ノ爲最緊切ナルモノト云フヘシ
以下製帽業ノ現況及改善策ニ付研究セン

第一編 現況

第一章 本島ノ製帽業

第一節 本島製帽業ノ發達

一 大甲帽

本島ノ製帽業ハ明治三十年ノ交新竹廳苑裡地方ニ以テ大甲帽ヲ以テ大甲帽ノ製造ヲ爲シタルニ創マル尤モ當時ハ少額ナリシモ漸次内地市場ニ紹介セラルルニ從ヒ其ノ産額ヲ増進シ三十九年ニ於テハ内地ノ流行其ノ極ニ達シ産額モ亦二十一萬圓ヲ算スルノ盛況ヲ呈シタリ然ルニ其ノ後粗製濫造ノ弊ヲ生シテ品質漸次下落シ加フルニ本帽ハ當初之カ珍奇ヲ以テ迎ヘラレタルニ拘ラス意匠ノ改善ニ留意セサリシ爲流行ハ漸次衰退スルニ至リ從テ内地移出額ハ減少シ支那輸出ヲ以テ主トシ少數ノ内地移出及島内消費ニ充ツルノ外其ノ需要ヲ見サルニ至レリ

其ノ大正七年ニ於ケル生産額ハ僅ニ壹萬六千餘圓ヲ算スルニ過キサリナリ

二 林投帽

是ヨリ先明治三十四年臺北ニ於テ臺灣、バナマト稱スル林投ノ纖維ヲ以テ編製シタル林投帽始メテ製造セラレ尋テ新竹、臺中、臺南ノ各廳下ニモ之カ製造ヲ爲ス者ヲ生シタリ林投帽ハ其ノ色純白ニシテ光澤及彈力ヲ有スルカ故ニ其ノ需要漸次多ク之カ製造業者亦増加セルノミナラス大甲帽ノ衰退ト共ニ大甲帽ヲ製造セシ者モ林投帽ノ製造ニ從事スルニ至リタル爲林投帽製造業ハ益隆盛トナルニ至レリ而シテ其ノ製造ノ最盛ナルハ新竹廳及臺中廳下ニ在リ尤モ今日ニ於テハ大甲帽ト同シク本業モ著シク衰退シタリ

三 紙帽

紙帽ノ製造ハ前者ニ比スルトキハ其ノ發達最後ニ在リ抑モ紙帽ハ其ノ色純白ニシテ體裁亦一段優美ナルノミナラス價格亦比較的低廉ナルヲ以テ林投帽ニ代リテ需要ヲ見ルニ至レリ即チ臺灣總督府統計書ニ依レハ本帽子ハ大正二年ニ始メテ計上セラレタルモ五年以降從來ノ林投帽製造業者ハ紙帽製造ニ轉シタルヲ以

テ其ノ製造益盛トナリ本帽ハ急速ニ發達シテ同六年以後ハ其ノ産額林投帽ヲ凌駕シ現在ニ於テ本島ノ製帽業ト稱スルトキハ殆ト紙帽ヲ意味スルノ域ニ發達セリ

四 製帽業ノ地位

終リニ本島製帽業ノ本島工産物中ニ於ケル地位ヲ知ランカ爲大正元年ヨリ同六年ニ至ル年額百萬圓以上ノ工産物ヲ表示スレハ左ノ如シ

年次	砂糖	穀類	酒類	茶	鐵工	帽子	染色	煉瓦類及陶磁器	油及油精
大正元年	三六七、二四六	三六、七〇一	三五、一九〇	六、八三五	？	一、六九六	？	一、六五五	六、九七二
二年	一八、九四二	三六、七〇一	三五、一九〇	六、八三五	？	一、四八八	？	一、八八七	七、〇七九
三年	三六、九二二	七、一一七	三三、七一九	六、八三五	？	一、四一〇	？	一、三二四	六、六五〇
四年	五八、八九三	六、八八三	三九、一八〇	八、二九三	？	一、三二八	？	一、二二四	七、八五八
五年	一〇五、二五五	一〇、七六〇	一〇、六六九	七、九三七	一、四四八	一、四七三	？	一、一五二	一、三三六
六年	一三六、二八六	一八、八〇七	一五、六六四	八、三九八	二、五四七	一、九〇六	一、九〇五	一、六七八	一、四九二

第二節 帽子生産額

今大正元年以降同七年ニ至ル本島ニ於ケル大甲帽、林投帽、紙帽ノ生産額ヲ示セハ

左ノ如シ

年次	大甲帽		林投帽		紙帽		合	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
大正元年	27,565	7,495	12,000	1,684	?	?	12,000	1,684
同二年	19,881	4,777	14,913	1,691	9,999	9,999	15,204	1,886
同三年	39,655	10,174	21,997	1,807	?	?	21,997	1,807
同四年	29,555	5,402	24,890	1,188	8,085	8,085	25,350	1,188
同五年	3,411	1,977	20,694	1,143	18,540	10,000	20,694	1,143
同六年	22,299	7,975	58,888	3,859	22,000	15,944	58,888	3,859
同七年	59,425	16,379	16,549	682	22,259	15,278	32,853	1,550

備考 本表ハ大正六年迄ハ臺灣總督府統計書ニ依リ同七年ハ帽子検査所ノ報告ニ依ル

即チ本表ニ依レハ大甲帽ノ製造ハ大正元年以降七箇年間ニ於テ其ノ産額一進一退シテ極メテ不規則ノ産額ヲ示セリ即チ大正三年及大正七年ノ如キハ共ニ一萬圓ヲ超過シ殊ニ大正七年ノ如キハ一萬六千圓(五萬九千圓)ヲ超過セルニ拘ラス大正五年ノ如キハ僅ニ二千圓(四千圓)ニ達セス其ノ間非常ノ相違アルヲ認ムヘシ然レトモ林投帽ニ至リテハ年ヲ逐フテ減退セリ即チ大正元年ニハ百六十八萬圓

(百二十一萬圓)ナリシモ漸次減少シテ百四十萬圓(百四十九萬圓)トナリ百十萬圓(臺二百二萬圓)トナリ殊ニ大正六年以降ハ著シク減少シテ同年ハ三十二萬圓(五十八萬圓)トナリ同七年ニハ單ニ六千八百餘圓(一萬六千圓)トナリテ曾テ百五十萬圓内外ノ産額ヲ有セシ生産品ハ殆ト消滅スルニ至レリ之ニ反シテ紙帽ハ最近俄ニ發達シ來レリ即チ大正五年以前ニ於テハ殆ト數フルニ足ラサリシニ拘ラス同年ニハ一躍百萬圓(百八十五萬圓)ヲ超エ同六年ニハ百五十九萬餘圓(三百二十六萬圓)トナレリ只大正七年ニハ稍減少ノ傾向ヲ有スレトモ尙百五十二萬餘圓(三百十四萬圓)ヲ算セリ

此ノ如ク帽子ノ種類ニ依リテハ消長アリト雖其ノ總計ニ於テ觀察スルトキハ價額ノ點ニ於テハ本島製帽業ハ殆ト消長ナキモノノ如シ即チ大正元年ノ百六十九萬餘圓(百二十三萬圓)ハ大正六年ニ於テ百九十三萬圓(三百八十六萬圓)ヲ算シ同七年ニ於テ百五十五萬圓(三百二十一萬圓)ヲ算スレハナリ尤モ大正七年ノ産額ヲ以テ大正五年ノ二百二十二萬圓(三百八十八萬圓)同六年ノ百九十三萬圓(三百八十六萬圓)ニ比較スルトキハ最近製帽産額ヲ減退セルノミナラス更ニ物價ノ騰貴帽子

價昂上等ノ點ヨリ考フルトキハ本島製帽ハ衰退ノ傾向ヲ有スルカ如シ
 更ニ右表ニ依リ大正元年ニ於ケル各種帽子産額ノ割合ヲ見ルニ數量ニ於テ大甲
 帽二分、林投帽九割八分價額ニ於テ大甲帽四厘、林投帽九割九分六厘ノ割合ヲ示シ
 爾後同四年ニ至ル間ハ概シテ此ノ割合ヲ保チシカ同五年ニ至リ紙帽ノ産額俄ニ
 増加シタルヲ以テ數量ニ於テ大甲帽二厘、林投帽五割二分一厘、紙帽四割八分五厘
 ノ割合トナリ更ニ同七年ニ至リテハ數量ニ於テ大甲帽一分八厘、林投帽六厘、紙帽
 九割七分六厘價額ニ於テ大甲帽一分、林投帽五厘、紙帽九割八分五厘ノ割合ヲ示シ
 紙帽ノ全盛ヲ見ルニ至レリ

更ニ同期ニ於ケル帽子移輸出検査高ヲ見ルニ大正二年及同六年ニ於テハ生産額
 ヨリモ却テ増加セリ是レ前者ハ帽子検査所ノ調査ナルモ後者ハ各廳ノ調査ニ係
 ルモノニシテ其ノ出所ヲ異ニスル結果ナルモ參考ノ爲之ヲ示セハ左ノ如シ

年次	大甲帽		林投帽		紙帽		合計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
大正元年	6,499,500	1,107,500	1,098,000	1,981,900	1,107,500	1,107,500	11,107,500	1,107,500
同二年	5,900,000	1,100,000	2,097,500	1,438,800	1,107,500	1,107,500	11,107,500	1,107,500
同三年	5,100,000	1,100,000	2,097,500	1,438,800	1,107,500	1,107,500	11,107,500	1,107,500
同四年	5,600,000	1,100,000	2,097,500	1,438,800	1,107,500	1,107,500	11,107,500	1,107,500
同五年	2,988,000	733,000	2,137,500	1,107,500	6,277,000	3,856,800	10,500,000	1,500,000
同六年	1,810,000	467,000	5,853,000	3,336,300	3,277,000	1,586,400	2,875,600	1,927,000
同七年	5,941,500	1,637,000	1,654,000	681,200	3,222,500	1,577,200	5,118,500	1,550,000

備考 紙帽ハ大正五年十一月検査開始後ノ數量トス

第二章 本邦ニ於ケル本島帽子ノ地位及帽子ノ輸出

一 本島帽子ノ本邦ニ於ケル地位

内地ニ於ケル製帽狀況ヲ見ルニ製帽業ハ本州中部以西四國九州及沖繩ノ各地ニ
 行ハレ其ノ産額大正五年ニハ三十七萬打價額四百三十二萬圓ニ達セリ
 今大正五年ニ於ケル五千打以上ノ産額ヲ有スル地方ヲ示セハ左ノ如シ

地方別	數量	價額
沖繩	259,415	2,635,261
東京	34,000	563,854

臺灣 重山 川重 庫阪 兵大 香大 三臺

臺灣	重山	川重	庫阪	兵大	香大	三臺
二九、七八六	一五、六七七	一二、五三八	七、八六五	七、三九七	三三三、六五八	二七、七五三
二七、七五三	一七二、九五九	三六二、七八五	九八、四二〇	一〇九、一三九	二、二四、七二二	一七二、九五九

本表ニ依レハ産額ハ臺灣第一位ヲ占ムレトモ其ノ價額ハ沖繩ニ及ハサルコト遠シ之ヲ一打ノ價格ニ付觀察スルニ沖繩帽ニ在リテハ十圓十六錢ナルニ本島帽ハ六圓八十七錢ノ價格ヲ有スルニ過キスシテ其ノ間三圓二十九錢ノ開キアリ

二 帽子輸出額

外國貿易表ニ依リ大正三年以降同七年ニ至ル模造バナマ帽模造バナマ帽ハ大部分紙帽トス輸出額ヲ示セハ左ノ如シ

年次	量	價	額
大正三年	二九五、二五九		二、六四四、七一六

大正	同	同	同	同
四年	五年	六年	七年	八年
二五四、五四八	四七九、〇二五	四五四、九八七	三八五、九五六	二、七九〇、八二三
五、四五六、四四一	四、三三〇、八八七	三、三五八、八〇二		

右表ニ依レハ大正三年ニハ三百六十四萬圓ナリシモノ同四年ニハ二百七十九萬圓ニ減シタルモ同五年ニハ一躍シテ五百四十五萬圓ニ激増セリ然ルニ同六年ニハ再ヒ減少シテ四百三十三萬圓トナリ同七年ニハ更ニ減シテ三百三十五萬圓トナルニ至レリ是レ歐洲戰亂ノ影響並流行ノ變遷等ニ因ルモノトス殊ニ大正七年米國ニ於ケル輸入禁止ハ其ノ大ナル原因ヲ爲スヘシ(尤モ同禁輸ハ政府ノ熱心ナル交渉ニ依リ幾何モナク解禁セラレタリ)

三 輸出仕向地

今大正三年ヨリ同七年ニ至ル仕向地別帽子輸出額ヲ表示スレハ左ノ如シ

仕向地	大正三年		大正四年		大正五年		大正六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	四五六七	七、二八四	四、四八八	六、七九六	五、五三九	七、四二七	六、五九八	七、三九六

關東州	香港	英領印度	同海峽植民地	蘭領印度	露領亞細亞	比律賓諸島	暹羅	英吉	北美合衆國	加奈太	喜望峯植民地及ナタル	濠洲	布刺利	其ノ他諸國	合計
六三三	1,210	1,018	3,471	4,046	1,877	1,633	1,604	1,718	2,544	3,119	1,142	1,142	1,611	5,706	29,529
11,011	10,477	3,359	5,776	9,321	3,404	3,301	2,119	10,690	30,516	4,758	2,150	2,150	4,172	8,728	36,476
3,455	2,913	1,355	2,523	911	775	916	407	915	19,848	1,130	1,68	3,376	579	741	25,458
3,722	3,870	3,111	2,868	1,427	1,016	1,874	463	2,181	19,579	3,048	4,741	5,157	1,368	908	27,982
5,433	4,111	3,110	6,144	2,444	1,877	526	1,733	8,419	38,040	3,333	1,414	6,547	1,051	2,970	47,925
7,466	9,753	1,295	6,279	3,218	3,014	976	1,909	11,500	41,829	3,670	2,277	8,074	2,273	4,926	54,541
1,637	7,843	800	5,96	5,353	1,131	5,909	488	8,760	32,213	2,867	4,603	4,737	470	1,291	45,497
1,637	7,130	1,290	7,740	4,761	2,811	6,447	579	6,571	30,768	2,944	6,508	4,953	971	2,090	43,387

右表ニ依レハ大正六年ニ於ケル輸出數量ハ米國ヲ首トシ濠洲、加奈太、英國、香港、支那、比律賓諸島、蘭領印度等順次之ニ亞ケリ
米國ハ從來本邦模造バナマ帽ノ最大需要地ニシテ大正三年ニハ三百五萬圓ナリ

シモノ同四年ニハ百九十五萬圓ニ減シタルモ同五年ニハ四百十八萬圓ニ激増シ
同六年ニハ三百萬圓ニ減少スルニ至レリ尤モ近來同國ニ於ケル流行ハ下流社會
ニ移リタルヲ以テ安物ノ需要多ク從テ製品ノ確實ト販賣法宜シキヲ得ハ下流社
會ニ普及セラルルコト難事ニアラスト云フ
米國ニ亞キ需要多キハ濠洲ナリ即チ大正三年ニハ二十一萬圓ナリシモノ同四年
ニハ五十一萬圓同五年ニハ八十萬圓ニ増加シタルモ同六年ニハ四十五萬圓ニ減
少スルニ至レリ然レトモ猶本邦全輸出額ノ一割ヲ占ムルノ狀況ナリ同地ニハ、エ
クアドル產品ノ需要多ク本邦品ハ勢ヒ之ト競争セサルヘカラサルヲ以テ同地ニ
於ケル模造バナマ帽ノ將來ハ當業者ノ一段ノ努力ヲ要スルモノトス
支那ニ對スル輸出額ハ大正三年七萬圓同四年六萬圓同五年七萬圓及同六年七萬
圓ニシテ比年殆ト同額ノ輸出ヲ爲セリ

第三章 帽子ノ產地

第一節 各廳ニ於ケル狀況

本島ニ於ケル帽子ノ產地ハ臺中廳、新竹廳ヲ主トシ臺南廳、臺北廳、澎湖廳、阿緞廳ニ於テモ産出セリ

今帽子検査所検査高ニ依リ大正三年以降同七年ニ至ル五箇年間ノ産額ヲ產地別ニ示セハ左ノ如シ(單位箇)

廳別	大正三年		大正四年		大正五年		大正六年		大正七年	
	大甲	林投	大甲	林投	大甲	林投	大甲	林投	大甲	林投
臺北	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010
新竹	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010
臺中	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010
臺南	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010
阿緞	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010
澎湖	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010	1,010
合計	5,050	5,050	5,050	5,050	5,050	5,050	5,050	5,050	5,050	5,050

右表ニ依レハ臺中廳ノ各種帽子産額ハ大正三年ニハ百四十九萬箇ナリシモノ同四年ニハ百七十一萬箇同五年ニハ二百九萬一千箇トナリ同六年ニハ更ニ増加シテ二百五十九萬三千箇トナリタルモ同七年ニハ二百四十四萬六千箇ニ減少セリ

而シテ其ノ本島帽總産額トノ割合ハ大正三年ニハ七割同四年ニハ八割同五年ニハ七割五分同六年ニハ六割七分同七年ニハ七割六分ヲ示シ各年本島總産額ノ過半ヲ産セリ

新竹廳ニ在リテハ大正三年ニハ六十四萬九千箇ニシテ同四年ニハ四十一萬三千箇ニ減シタルモ同五年ニハ六十九萬二千箇ニ同六年ニハ百二十二萬六千箇ニ増加セリ然ルニ同七年ニハ六十五萬五千箇ニ減少スルニ至レリ而シテ其ノ總産額ニ對スル割合ハ大正三年ニハ三割同四年ニハ二割同五年ニハ二割五分同六年ニハ三割二分同七年ニハ二割ヲ算セリ即チ本島帽子産額ノ大部分ハ是等二廳下ノ占ムルモノニシテ右二廳合計ハ大正三年同四年及同五年ニハ各年十割ヲ占メ同六年ニハ九割九分同七年ニハ九割六分ヲ占ム而シテ大正六年ニ至リ臺南廳四萬九千箇、臺北廳四千箇、阿緞廳一千箇、澎湖廳八百箇ノ産出アリ是等ヲ合算スレハ總産額ノ一分ヲ占メ同七年ニハ臺南廳十萬九千箇、澎湖廳二千箇、臺北廳二千箇、阿緞廳一千箇ノ産額ヲ有シ此ノ合計ヲ以テ總産額ニ對比スレハ四分ヲ占ムルニ過キス更ニ各地ニ産スル帽子ノ種類ヲ見ルニ臺中廳及新竹廳ハ大甲帽、林投帽及紙帽

ヲ産シ殊ニ新竹廳ハ大甲帽ノ產地ニシテ其ノ産額大正三年ニハ四萬一千箇ナリ
 シモノ同四年ニハ三萬四千箇同五年ニハ二萬八千箇同六年ニハ一萬七千箇ニ漸
 減セルモ同七年ニハ五萬四千箇ニ激増セリ而シテ之ヲ臺中廳ノ大正三年ヨリ同
 六年ニ至ル各年一千箇内外同七年五千箇ヲ産セルニ比スレハ新竹廳ハ大甲帽ノ
 殆ト全額ヲ占ムルモノトス

此ノ如ク臺中、新竹ノ二廳ニ本業ノ盛ナルハ兩地カ其ノ發源地ニシテ有力ナル移
 出業者及製帽業者ヲ有セルト製帽職工モ經驗ニ富メル者多キトニ依ルモノニシ
 テ其ノ他ノ諸地方ト雖本業ニ適セサルニ非サルヲ以テ適當ノ方法ヲ講シ之カ普
 及ヲ圖ルニ於テハ其ノ實現ヲ期スルコト難事ニアラス

第二節 各地方ニ於ケル狀況

各廳下ノ狀況ハ前述ノ如クナルカ更ニ今各地方ニ於ケル狀況ヲ見ルトキハ左ノ
 如シ(大正七年ニ於ケル各種帽產地別)

產地別	大甲帽	林投帽	紙帽	合計
-----	-----	-----	----	----

臺北廳	新竹	後壠	通霄	苑裡	中苑	苗中	新苗	五里	大甲	彰化	彰化	和美	和美	沙鹿	大肚	大肚	梧棲	鹿港	葫蘆	臺中
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
54108	109111	3988	3110	3803	1994	64	109111	1994	815	356	356	356	356	356	356	356	356	356	356	356
23333	23333	127939	109857	92435	236838	23294	168	590531	2250	564662	49947	14133	36833	102141	16082	4915	19811	5060	71630	931
23333	23333	127939	109857	92435	236838	23294	168	590531	2250	564662	49947	14133	36833	102141	16082	4915	19811	5060	71630	931

次ニ大正七年ニ於ケル紙帽五萬箇以上ノ產地ヲ見ルニ新竹廳ニ在リテハ苑裡、新竹、後壠、通霄、臺中廳ニ在リテハ牛罵頭、大甲、和美、線沙、轆、彰化、鹿港、臺南廳ニ在リテハ臺南ナリトス而シテ帽子ノ品質ハ臺北、臺南及澎湖島産最良好ナルモ其産額少キカ故ニ之ヲ措キ其ノ他ノ地方ニ在リテハ通霄、苑裡、大甲、和美、線、牛罵頭、彰化ハ比較的良品ヲ産シ後壠及鹿港産ハ最粗惡品ナリトス

第四章 製帽業者

本島ニ於ケル帽子ノ製造ハ工場組織ニ依リ大規模ニ行ハルルモノニアラスシテ皆手工的家内工業ナリトス
 製帽業者トハ自ラ帽子ノ編製ヲ爲ス者ニアラスシテ職工ヲシテ帽子ノ編製ヲ爲サシムルヲ業トスルモノナリ即チ機業ニ於ケル織元ノ如ク原料ヲ職工ニ交付シテ帽子ヲ編製セシメ之ニ對シ編賃ヲ支拂フモノナリ而シテ製帽業者ニ二種アリ
 專業トシテ之ニ従事スル者及雜貨商又ハ他ノ製造業ヲ兼營スル者はレナリ製帽業者ノ多クハ前者ニ屬ス

製帽業者ハ更ニ專ラ帽子ノ製造ヲ爲ス者帽子移出業ヲ兼スル者及帽子仲買業ヲ兼スル者ノ三ニ區別セラル就中移出業兼營ノ製帽業者ハ自ラ職工ヲシテ帽子ヲ編製セシムルノ外他ノ製帽業者ニ原料ヲ交付シテ一定ノ工賃ノ下ニ製帽ヲ委託スルト同時ニ他ノ製帽業者ヨリ帽子ヲ買取りテ之ヲ移出シ又原料ヲ内地ヨリ移入シテ他ノ製帽業者ニ販賣スルモノニシテ比較的資力ニ富メリト雖其ノ他ノ製帽業者ハ大體ニ於テ資金乏シク其ノ運轉ヲ迅速ナラシムルニ努ムルヲ以テ製品ヲ得ルニ艱難シ其ノ間不正手段ヲ伴フコト多シ即チ其ノ資金ノ缺乏セルニ當リテハ他ノ製帽業者ノ先約アル職工ニ割増金ヲ與ヘテ之ニ自己ノ帽子ヲ編製セシメ甚シキハ既ニ編製ヲ終リタル他ノ製帽業者ノ製品ニ割増金ヲ與ヘテ自己原料分トシテ受クルコトアリト云フ

今大正六年及同七年ニ於ケル製帽業者數ヲ應別ニ示セハ左ノ如シ

廳	別	大正六年	大正七年
新 臺	北	四五	四八
竹	北	五	四

臺	嘉	臺	阿	澎	合
一四八	一	三	一	二〇七	一七九
中	義	南	緜	湖	計
一七九	三	一	一	三二九	三二九

一 右表中大正六年ハ臺灣總督府統計書ニ依リ同七年ハ同府殖産局商工課調査ニ依レリ然ルニ臺灣總督府統計書中上表臺中廳下ノ製帽業者數ハ悉ク大甲帽製造業者ニシテ林投帽及紙帽ノ製造業者一人モナシ然ルニ同廳下ニ於ケル帽子産額ヲ檢スルニ大甲帽ハ僅ニ二千三百圓ノ産額ヲ有スルニ拘ラス紙帽ハ百十萬圓林投帽ハ十九萬五千圓ノ産額アリ從テ此ノ間何レカニ誤謬アルモノト見サルヘカラス

二 本表ニ依レハ大正七年ノ製帽業者數ハ前年ニ比シ百十八人ノ増加アリ然ルニ前述ノ如ク帽子ノ産額ハ却テ減少(三十八萬圓)セリ是レ一見不合理ノ觀ナキニアラス

三 本表ニ依レハ製帽業者ハ臺中廳最多ク新竹廳之ニ次キ其ノ他ノ地方ハ極メテ少シ

四 尙茲ニ注意スヘキハ帽蓆同業組合員ニ非スシテ比較的的生計ニ餘裕アル者カ小資本ヲ以テ内密ニ製帽業又ハ仲買業ヲ營ミ又繼續シテ營マサルモ帽子ノ好況ナル場合ニハ忽チ製帽業又ハ仲買業ヲ營ミ一旦好況ヲ經過スレハ廢業スル者アルコト是レナリ是等小資本ノ製帽業者ノ數ハ之ヲ確知スルヲ得スト雖是等ハ殆ト著實ナル經營ヲ爲ス者ニ非サルカ故ニ其ノ營業上ノ不正行為ヨリ蒙ル損害ハ少カラサルヘシ

第五章 製帽職工

職工ハ製帽業者ヨリ原料ヲ受ケ自宅ニ於テ帽子ノ編製ヲ爲ス者ナリ普通五十歳以下十二三歳以上ノ者ハ編製ニ從事シ十一二歳以下七八歳ノ者ハ耳組ヲ爲ス新竹臺中兩廳下ニハ同業組合ヨリ職工章ヲ交付シ一定ノ製帽業者ノ下ニ附屬セシムルモ其ノ他ノ地方ニ在リテハ一定ノ製帽業者ニ附屬スルモノト何レノ製帽業者ニモ附屬セサル者トアリ然レトモ現今製帽業者ノ數多ク職工ノ爭奪ヲ爲シ

ツツアルヲ以テ事實ニ於テハ職工ノ專屬ナク職工ハ何レノ製帽業者ノ帽子ヲモ編製スルモノトス從テ職工ノ統制若ハ技術ノ向上ヲ計ルコト困難ノ狀況ニ在リ即チ職工ハ種々ノ狡猾手段ヲ弄シ(一)原料ヲ盜取シ(二)製品ノ掬替ヲ行ヒ(三)工賃ヲ糶上クルモノトス

職工數ハ臺灣總督府統計書ニ依レハ大正五年ニハ男千十一人、女二萬千三百五人計二萬二千三百十六人ニシテ同六年ニハ男八百六十八人、女四萬人計四萬八百六十八人ヲ示シ本島ニ於ケル製帽職工ハ大部分本島人婦女子ナリトス今大正六年及同七年ニ於ケル職工數ヲ應別ニ示セハ左ノ如シ

廳別	大正六年		合計	大正七年	
	男	女		男	女
臺北	100人	100人	100人	?	?
新竹	274	1,472	1,506	2,262	2,262
臺中	594	2,498	2,550	4,006	4,006
嘉義	1	59	59	1	1
臺南	1	52	52	278	278
合計	868	20,000	20,868	6,616	6,616

- 一 右表中大正六年ハ臺灣總督府統計書ニ依リ同七年ハ同府殖産局商工課調査ニ依レリ然ルニ臺灣總督府統計書ニハ臺中廳ノ製帽職工數ハ悉ク大甲帽製造職工ニシテ林投帽及紙帽ノ製造職工ナキヲ以テ前章ニ説明シタルト同一ノ理由ニ依リ何レカニ誤謬アルモノト見サルヘカラス
- 二 本表ニ依レハ大正七年ノ製帽職工數ハ前年ニ比シ二萬五千二百八十四人ヲ増加セリ然ルニ前述ノ如ク帽子産額ハ却テ三十八萬圓減少セリ是レ亦前陳ノ如ク一見不合理ノ觀アリ
- 三 本表ニ依レハ製帽職工ハ臺中廳最多ク新竹廳之ニ次キ其ノ他ノ地方ハ極メテ少シ

第六章 帽子ノ編製

第一節 原料

製帽原料ハ大甲及林投帽ニ在リテハ本島ニ産スル大甲蘭及林投纖維ヲ用フ大甲

蘭ノ栽培ハ現今土質ノ關係上苑裡、大甲附近ニ限ラルル狀況ナルモ更ニ研究シテ之ヲ擴張スレハ所要ノ原料ヲ得ルハ難事ニアラス林投纖維ハ林投ノ一時濫伐セラレタル結果供給減シタルコトアルモ現今ニ於テハ嘉義、臺南、阿緞廳下ニ多量ノ産出アルヲ以テ供給充分ニシテ且將來ト雖維持ノ方法ヲ講スルトキハ優ニ自給スルヲ得ヘシ此ノ如ク大甲帽及林投帽ノ原料ハ島内ニ産出スルニ反シ紙帽ノ原料ハ全部之ヲ内地ニ仰ク

抑モ紙帽ノ原料ハ楮及三椏ヨリ製シタル紙ニ一定ノ塗料ヲ塗付シタルモノナリ原料紙ハ主トシテ土佐、伊豫、美作及備前等ニ於テ製造セラルル而シテ是等諸地方ニ於テハ原料紙ニ塗料ヲ塗付シタル完製品ノ製造ヲ爲ス者アリト雖其ノ多クハ原料紙ノ儘販賣スルモノトス即チ一卷ノ原料紙ヲ六分、七分又ハ八分等一定ノ幅ニ細斷シテ輪狀(重量一貫目)ト爲シ主ニ神戸ニ於テ販賣ス塗料ハ初メセルロイド液ヲ用キタリシモ後ニ至リセラチン、糯粉、タルキ、正麩、酸化亞鉛等ヲ以テ製セル塗料ヲ塗付スルコトトナレリ前者ヲ塗付セル原料ハセルロイド引原料ニシテ後者ヲ塗付セル原料ハ水製原料ナリトスセルロイド引原料ハ現今太陽製帽株式會社、日

本夏帽株式會社、敷島夏帽株式會社及竹内製帽株式會社等ノ特許品ナリトス而シテ其ノ塗料ヲ施スニ當リテハ先ツ紙燃器ヲ以テ原料紙ヲ燃ルモノニシテ其ノ燃リ方ニ横燃ト縦燃トアリ横燃ハ原料紙ノ燃リ方不十分ニシテ恰モ原料紙ヲ扱キタルカ如キモノニシテ縦燃ハ燃リ方充分ナルモノナリ今横燃原料ト縦燃原料トヲ比較スルニ前者ハ表面ニ皺ヲ現ハセトモ後者ハ然ラス又前者ハ其ノ價格後者ヨリモ廉ナリ

水製原料ハ原料ノ燃方紙幅ノ廣狹及塗料ノ回數ニ依リテ種類ヲ分チ其ノ長サハ製造元ニ依リテ多少ノ差異アレトモ普通八分原料及七分原料ハ九百五十尺乃至千百尺ニシテ六分原料ハ千四百尺内外ナリトス

水製原料ノ製造ハ神戸ヲ主トシ其ノ他ノ地方ニ於テモ行ハレ本島ニ於テハ未タ行ハレス然レトモ本島移出業者ニシテ神戸ニ於テ之カ製造ヲ爲ス者アリ是等ハ原料紙ヲ製紙會社又ハ原料紙商ヨリ仕入レ自己ノ工場ニ於テ之ニ塗料ヲ塗付スルモノトス

今紙帽原料ノ種類及大正八年六月臺中廳大甲ニ於ケル價格ヲ示セハ左ノ如シ

種類	塗料回数	八分		七分		六分	
		長さ	価格	長さ	価格	長さ	価格
水製 〔横燃原料〕 〔一名普通原料〕	一回	九七〇 尺	一七〇 円	九七〇 尺	一五五 円		
水製 〔縦燃原料〕 〔一名改良原料〕	一回	一〇〇〇	二〇〇	一〇〇〇	一八五		
同	一回	一〇〇〇	二〇〇	一〇〇〇	二〇五		
同	一回	一〇〇〇	二〇〇	一〇〇〇	二八〇		
同	一回	一〇〇〇	二六〇	一〇〇〇	二六〇		
同	一回	一〇〇〇	三二〇	一〇〇〇	二九〇		
セルロイド引原料	三回	一、一〇〇	七二〇	一、一〇〇	七〇〇		六五〇

(大甲帽同業組合調査)

右ノ中多ク使用セラルルモノハ水製八分原料ニシテ同七分原料及同六分原料之ニ次キセルロイド引原料ハ最少シ
 前述ノ如ク紙帽ノ原料ハ全部内地ヨリ移入スルモノニシテ其ノ移入高ハ毎年五十萬餘圓ニ上リ(大正六年五〇五、八〇六圓、七年五〇五、一七三圓)紙帽産額ノ約三分ノ一ニ相當ス故ニ紙帽生産ニ依ル利益ハ此ノ金額丈減殺セラルルコトトナル從テ原料紙ヲ本島ニ於テ製造スルノ必要アルヘキモ本島製紙業ハ幼稚ニシテ僅ニ竹紙ヲ製スルニ過キス原料紙ノ製造ヲ爲スニハ新ニ機械其ノ他ノ設備ヲ爲スト

共ニ格及三極ノ栽培ヲ爲スノ要アルヘシ

第二節 帽型

帽型ハ帽子編製ニ際シ帽子ノ頭部ノ内面ニ箱入スル器具ニシテ木材ヲ以テ製シ普通上部ノ直徑六吋半高サ四吋下部ノ直徑七吋ナリトス帽型ハ以前製帽業者ヨリ職工ニ配付シタリシモ紛失又ハ窃取セラルル爲回收容易ナラサルヲ以テ現今ニテハ製帽業者ヨリ配付スルコトナシ從テ職工ハ自ラ之ヲ購入スルヲ要スルモノトス之ヲ購入スルニハ地方ニ依リテハ特ニ大工ニ託シ作ラシメサルヘカラスト雖製帽ノ中心地方ニ於テハ帽型製造ヲ專業ト爲ス者少カラス其ノ價格ハ木材ニ依リテ差異アルモ一箇十五錢乃至四十五錢ナリトス

右ノ如ク現今帽型ハ職工自ラ購入スルヲ以テ狡猾ナル職工ハ帽型ヲ削リテ細小ニシ編製工程ヲ省略スルト共ニ原料ノ餘分ヲ多カラシメ之ヲ自己ノ收得ト爲スコトアリ是ニ於テカ新竹廳帽同業組合ニ於テハ本部所在地タル通霄並新竹中港、後壠及苑裡等ノ各出張所ニ帽型五百箇宛ヲ配付シテ管内職工ノ所持セル舊帽型ト交換シ同業組合ニ於テ検査シタル帽型ニ非サレハ使用スルヲ得サラシメ以

テ帽型ノ統一ヲ圖リタリ又牛馬頭帽蓆同業組合ニ於テモ帽型ノ交換ヲ行ヒ帽子ノ統一ヲ圖リタリ

三〇

第三節 帽子編製法

帽子ノ編製ハ帽體ノ編製及耳指ノ二種ノ分業ニ區別セラルル前者ハ比較的熟練セ
ル職工ノ營ム所ニシテ後者ハ多ク八歳乃至十二歳ノ小兒ノ爲スモノトス
編製法ヲ説明スルニ先チ帽子各部ノ名稱ヲ述フルヲ便トス即チ帽子ノ頂上ノ一
面ヲ帽頂ト稱シ其ノ中心ヲ帽心ト謂ヒ帽子編製ノ最初ノ工程ヲ行フ所ニシテ帽
頂ニ接スル側面ヲ帽胴ト謂ヒ之ニ接スル帽子ノ最下部ノ周圍ヲ爲セルモノヲ帽
縁ト謂フ帽縁ハ帽子編製ノ最後ノ工程ヲ行フ所トス帽縁ニ附著セル原料ノ尖端
ヲ草尾ト謂フ而シテ是等各部ヲ一括シテ帽體ト稱ス

紙帽ヲ編製スルニハ先ツ原料ヲ適宜ノ長サニ切斷スルヲ要シ其ノ長サハ編製ス
ヘキ帽子ノ品質原料ノ厚薄及其ノ使用箇所ニ依リテ異ルモ同一ノ原料ヲ以テ同
一品質ノ帽子ヲ編製スルニハ概ネ一定セルモノトス而シテ其ノ長サハ帽心ヨリ
帽縁ニ至ルニ從ヒ漸次短クナルモノニシテ編製ニ當リテハ何レモ折返シテ使用

スルモノトス而シテ之ヲ以テ帽子ヲ編製スルニハ六本又ハ七本ノ原料四組ヲ以
テ正形ニ組合セテ帽心ヲ造リ次ニ直ニ一番殖シヲ爲シ殖シトハ新原料ヲ取リテ
附加スルコトヲ謂ヒ殖シニ要スル新原料ノ數量ニ依リテ帽子ノ粗編又ハ密編ヲ
生スルモノトス(二本綾ニ編出シ漸次殖シヲ爲シ六番殖シニ至ル迄編續ケ帽頂ヲ
編製スルモノトス殖シト殖シトノ間ハ一廻リ乃至六廻リ編ミトス而シテ帽頂ノ
直徑五寸三分乃至五寸五分編ミタル後帽胴ノ編製ニ移ルモノニシテ帽胴ニ於テ
ハ殖シヲ爲スコトナク胴ノ高サ三寸四分ニ至ル迄編續クルモノトス
右ノ如ク帽胴ノ編製ヲ終リタルトキハ帽縁ノ編製ヲ爲スモノニシテ帽縁ニ於テ
一番殖シヲ爲シ約四廻リヲ編ミタル後帽型ヲ入レ二番殖シヲ爲シ次ニ約四廻リ
ヲ編ミテ三番殖シヲ爲シテ帽子ノ編製ヲ終リ耳指ヲ爲サスシテ製帽業者ニ交付
ス帽子一箇ヲ編製スルニ要スル原料ハ原料ノ太細男子帽婦人帽ノ別及粗編ト密
編トノ別ニ依リ差異アリ細原料ハ太原料ヨリモ婦人帽ハ男子帽ヨリモ又密編ハ
粗編ヨリモ多クノ原料ヲ要スルモノトス而シテ通例八分原料ヲ以テ三等帽以上
ヲ編製スルトキハ千五十尺以上ヲ要スルモ四等帽以下ハ一卷(九百七十尺)ヲ以テ

足ルモノトス尤モ此ノ場合ニハ粗編ノ爲ナルヲ以テ其ノ粗編ノ程度ニ依リ一卷以下ニテ足ル場合アリ今男子帽三等品及同六等品編製ニ要スル原料及之カ編製法ヲ示セハ左ノ如シ

A 表

合 計	帽 頂							使用箇所	前箇所トノ間隔	植シ方	使 用 原 料			
	心	一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植				七 番 植	一本ノ長サ	本 數	長 サ
二 番 植	一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	心ヲ造リ直ニ	一週リ編ミテ	一本二分毎ノ割	三・四尺	二四	八・六尺	四八本
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	一週リ編ミテ	一週リ編ミテ	一本五分毎ノ割	三・三	二二	六・〇尺	八八	
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	一週リ編ミテ	二週リ編ミテ	一本七分毎ノ割	三・二	四四	九・六尺	一四八	
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	一週リ編ミテ	三週リ編ミテ	一本七分毎ノ割	三・〇	四四	一三・四尺	一四八	
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	一週リ編ミテ	四週リ編ミテ	二本七分毎ノ割	二・九	四四	一七・四尺	一四八	
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	一週リ編ミテ	五週リ編ミテ	二本八分毎ノ割	二・八	三九	二一・一尺	一四八	
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	一週リ編ミテ	六週リ編ミテ	九本七分毎ノ割	二・七	三二	二二・一尺	一四八	
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	一週リ編ミテ	七週リ編ミテ	三本八分毎ノ割	二・六	二八	二二・七尺	一四八	
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	六 番 植	七 番 植	一週リ編ミテ	八週リ編ミテ	三本九分毎ノ割	二・五	二二	二三・七尺	一四八	
合 計											五・九	二〇八	一三・九尺	一〇九八

B 表

合 計	帽 頂					使用箇所	前箇所トノ間隔	植シ方	使 用 原 料			
	心	一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植				一本ノ長サ	本 數	長 サ	總 數
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	心ヲ造リ直ニ	一週リ編ミテ	二本毎	三・三	二八	九・四尺	五六本	
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	一週リ編ミテ	一本八分毎ノ割	三・一	二四	八・四尺	八四		
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	一週リ編ミテ	一本七分毎ノ割	三・〇	二四	七・四尺	一三二		
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	一週リ編ミテ	一本七分毎ノ割	二・九	四〇	一〇・〇尺	二二二		
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	一週リ編ミテ	二本一分毎ノ割	二・八	八〇	一七・八尺	三三六		
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	三本八分毎ノ割	二・七	六五	二二・〇尺	四九六			
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	八本七分毎ノ割	二・六	六〇	二二・六尺	六二六			
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	十三本四分毎ノ割	二・五	五〇	二二・〇尺	七五〇			
一 番 植	二 番 植	三 番 植	四 番 植	五 番 植	十二本九分毎ノ割	二・四	四〇	二二・一尺	八〇八			
合 計								〇・九	四〇四	九・九尺	八〇八	

右ノ内A表ハ七分原料三等帽B表ハ八分原料六等帽ニシテ孰レモ新竹應中港ニ於テ實査シタルモノトス而シテ其ノ重量ハ前者ハ二十六匁ニシテ後者ハ二十二匁ナリ

耳指ハ別ニ耳指職工ヲシテ爲サシムルモノニシテ其ノ方法ハ編止ノ所ヨリ二三分ノ所ニ於テ上部ニ折返シ其ノ内部ニ原料又ハ「カタシ」絲ヲ入レテ包編シ餘リノ原料ヲ耳ヨリ二三分目ノ編目ニ挿ムモノトス而シテ溝ヲ有スル針ヲ編目ニ挿入シテ餘リノ原料ヲ迎ヘ其ノ溝ニ依リ編目ヲ通シテ恰モ餘リ原料ヲ挾ミ得タルトキハ其ノ針ヲ抜キ次ノ編目ニ於テ同様ノ工程ヲ繰返シ縁邊ヲ一周シテ終リ剪刀ヲ以テ原料ノ尖端ヲ剪斷シ以テ全工程ヲ終ルモノトス然レトモ耳指終了後ニ於ケル原料ノ尖端ノ剪斷ハ耳指職工之ヲ爲ス場合ト耳指職工ハ耳指ヲ爲シタル儘製帽業者ニ交付シ製帽業者ニ於テ剪斷ヲ爲ス場合トアリ

第七章 工賃

工賃ハ原料ノ種類帽子ノ品質帽子ノ品質ハ一等ヨリ六等迄六級ニ分ツ帽子ノ種類地方及時期ニ依リ差違アリ紙帽ハ林投帽ニ比シ其ノ編製容易ナルヲ以テ工賃ハ林投帽ニ比スルトキハ通常一二割方低廉ナリ今大正六年及同七年ニ於ケル紙帽ノ工賃ヲ示セハ左ノ如シ

年次	種 類	
	男 子	婦 人
大正六年	一等	一等
	二等	二等
	三等	三等
	四等	四等
	五等	五等
	六等	六等
同 七 年	一等	一等
	二等	二等
	三等	三等
	四等	四等
	五等	五等
	六等	六等

(臺灣總督府殖産局商工課調査)

即チ大正七年ニ於ケル工賃ハ男子帽ニ在リテハ一箇二十錢乃至五十五錢婦人帽ニ在リテハ二十九錢乃至六十八錢ナリ尤モ右ハ水製原料ヲ以テ編製スル場合ニ於ケル全島ノ平均ニシテ普通工賃ト稱スルトキハ之ヲ意味スルモノナリ然ルニ原料ノ「セルロイド」引ナルト水製ナルトニ依リ工賃ニ大ナル差違アリ
今大正七年十一月通霄ニ於ケル男子帽編製工賃ヲ原料種類別ニ示セハ左ノ如シ

原料種類	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等
「セルロイド」原料	一一〇錢	九〇錢	七五錢	六〇錢	五〇錢	四〇錢
水製原料	七二	六〇	五〇	四〇	三九	二五

右表ニ依レハ「セルロイド」引原料ハ編製工賃水製原料ヨリ高率ナルモ「セルロイド」引原料ハ其ノ價格高價ナルヲ以テ其ノ使用セララルコト少ク産地モ僅ニ臺北通霄及澎湖島等ナリトス從テ其ノ産額ハ統計ノ徵スヘキモノナシト雖甚少キカ如シ更ニ紙帽ノ工賃ハ地方ニ依リ相違アルコト左表ノ如シ

大正七年十二月各地工賃表

地名	男						子						婦						人					
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	一等	二等	三等	四等	五等	六等
彰屬	五五						四五						三〇						四〇					
牛頭																								
臺中																								
大甲																								
苑裡																								
通霄																								
苗栗																								
後壠																								
新竹																								
平均	四七						四二						三六						三〇					

(臺灣總督府殖産局商工課調査)

地名	一等	二等	三等	四等	五等	六等
鹿港	四七					
臺南	四〇					
媽宮	二〇					
平均	六七					

本表ニ依ルトキハ工賃ハ地方ニヨリ非常ニ相違アルコトヲ知ルヘシ即チ其ノ極端ナルモノヲ例示スルトキハ(媽宮ハ「セルロイド」引原料ヲ以テ編製スルトキノ工賃ナルヲ以テ之ヲ措ク)

區別	最高額	最低額	平均
一等	七〇	四五	二五
二等	六〇	四〇	二〇
三等	六〇	三二	二八
四等	五〇	二五	二五
五等	四五	二〇	二五
六等	三五	一五	二〇

斯ノ如キハ甚シク不合理ノ觀ナシトセスト雖是レ各地方ニ依リ帽子ノ等級一定セサルコト、地方ニ於ケル職工ノ多寡等ニ基因スヘク尙調査ノ困難ナルコト亦重

大ナル原因ヲ爲スモノノ如シ
 以上ハ帽子一箇ノ工賃ニ付研究シタル所ナリト雖職工一箇月間ノ收入ハ果シテ
 幾何ヲ得ヘキカ此ノ點ニ付總督府後堀帽子検査所検査員ノ調査セルモノ左ノ如
 シ

等級	上等職工		中等職工		下等職工	
	箇數	工賃	箇數	工賃	箇數	工賃
三等	三	三八四	一	四	一	四
四等	五	三八四	八	四六八	一	四
五等	二〇	四八〇	二五	五七五	二七	五六七
六等	二六	五八八	三〇	六〇〇	三	五八九

右表ニ依レハ帽子ノ製造ハ上等帽ヲ編製スルヨリハ下等帽ヲ編製スルヲ以テ其
 ノ收入多シ是レ蓋シ上等帽ハ手數ヲ要スルニ拘ラス其ノ賃率比較的低キ爲ナル
 ヘシ

茲ニ注意スヘキハ普通上等職工ト稱スルトキハ上等帽モ下等帽モ一樣ニ編製シ
 得ヘキ筈ナレトモ製帽業ニ在リテハ上等職工ト稱スルハ上等帽編製ニ適スル職

工ヲ指スモノニシテ又下等職工ト稱スルトキハ下等帽編製ニ適スル職工ヲ稱ス
 ルモノナリ從テ縦合上等職工ト雖之ヲシテ下等帽ヲ編製セシムルトキハ其ノ技
 術却テ下等職工ニ及ハサルモノトス

尙本表ハ本島ニ於テ工賃低キ新竹應後堀ニ於ケル工賃ナルヲ以テ之ニ依リ全班
 ヲ推スヲ得スト雖大體ニ於テ製帽職工ノ月收入ヲ見ルヲ得ヘシ

第八章 生産費

紙帽ノ產地ニ於ケル生産費ハ原料代工賃及同業組合費ニシテ移出ノ場合ニ於テ
 ハ更ニ検査手數料包裝費及運送費ヲ要スルモノトス
 今牛馬頭ニ於ケル男子用五等帽子生産費ヲ掲クレハ左ノ如シ

- 一、原料代 十四錢一厘
- 二、工 賃 二十六錢七厘
- 三、同業組合費 一錢
- 計 四十一錢八厘

右ハ大正七年中ニ於ケル平均生産費ニシテ同年ニ於ケル平均價格ハ四十八錢三厘ナルヲ以テ差引一箇ニ付金六錢五厘ノ利益アルモノトス
 更ニ之ヲ移出スル場合ニハ尙検査手数料包装費及運送費ヲ加フルモノトス即チ神戸ニ移出ノ場合ニ於ケル費用ハ左ノ如シ

- 產地生産費 四十一錢八厘
- 検査手数料 二錢
- 包装及運送費 一錢二厘
- 計 四十五錢

即チ神戸市場ニ於ケル生産費ハ一箇四十五錢一打五圓四十錢ヲ要ス更ニ本島ノ生産費ヲ沖繩ニ比較シ其ノ高低ヲ見ルニ兩地ノ工賃ハ左ノ如シ

等級	臺灣平均工賃	沖繩		工賃	
		最高	最低	平均	均
一	五五錢	一二〇錢	八〇錢	八〇錢	一〇〇錢
二	四四	八〇	六〇	六〇	七〇

等級	臺灣平均工賃	沖繩		工賃	
		最高	最低	平均	均
三	三六	六〇	四〇	四〇	五〇
四	二九	三〇	一〇	一〇	三〇
五	二三	二〇	一〇	一〇	二〇
六	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇

右表中臺灣ノ工賃ハ大正七年中ニ於ケル平均工賃ニシテ沖繩ノ工賃ハ菟裡帽子検査所検査員ノ調査ニ依リタルモノナリ右表ニシテ正確ナルヲ得タリトスレハ臺灣ノ工賃ハ五十五錢乃至二十錢ニシテ沖繩ノ工賃ハ一圓乃至二十錢ヲ示シ臺灣ヨリモ高率ナルカ如キモ帽子ノ等級ハ臺灣ト沖繩トハ其ノ標準ヲ異ニシ之ヲ當業者ニ就キ調査スルニ臺灣ノ一等ハ沖繩ノ二等及三等ノ中間位ニ相當シ斯ノ如クシテ順次臺灣ノ等級ハ沖繩ノ等級ニ比シ一等級半ヲ下ルモノナルヲ以テ今此ノ標準ニ依リ兩地ノ工賃ヲ比較スレハ左ノ如キ結果トナル

等級	臺灣	沖繩
一	五五錢	六〇錢
二	四四	四〇

三	三六錢
四	二九
五	二三
六	二〇
等	
等	
等	
等	
二五錢	

即チ三等品ニ在リテハ臺灣ハ三十六錢ナルニ沖繩ハ二十五錢ニシテ臺灣ノ工賃十一錢高率トナリ二等品ニ在リテハ其ノ差額稍減少シテ四錢トナリ一等品ニ至リテ辛フシテ五錢ノ低率ヲ示セリ

右ノ内臺灣帽ハ三四五等品ノ生産多ク沖繩帽ハ三等品ノ生産最多ク之ニ亞クハ二等品及四等品ナリトス仍テ臺灣三等品ニ就キ兩地ノ生産費ヲ算出スレハ左ノ如キ結果ヲ得ルモノトス

地方別	原料	代	工	賃	同業組合費	合	計
臺灣	一五〇	一九〇	三六〇	二五〇	一〇	三	五二〇
沖繩							四四三

即チ臺灣ノ生産費ハ沖繩ニ比シ七錢七厘ノ高價ヲ示セリ要之現在ニ於テハ臺灣

帽子ノ品質ハ沖繩ニ比シ劣リ其ノ工賃モ亦不利ナルモ臺灣帽子ノ品質ヲ向上スルニ至ラハ却テ沖繩帽子ヨリモ有利ナルニ至ルノ傾向ナキニアラス

第九章 相場

第一節 相場ノ種類

産地ニ於ケル紙帽ノ相場ハ神戸市場ノ相場ニ支配セララルモノニシテ即チ神戸市場ノ相場ヲ標準トシ之ヨリ包装費小包料等ヲ差引キ尙多少ノ利益ヲ見込ミテ定メラルモノトス而シテ其ノ相場ハ島内取引ニ於テモ商館トノ取引ニ於テモ込相場及等級相場ノ二種アルモ多クハ込相場ニ依ルモノトス

込相場ニ依ル場合ハ各等ノ帽子ヲ突込ミ一打ヲ單位トシテ賣買スルモノニシテ之カ實際ニ當リテハ買主ハ賣買セラルヘキ各等帽子ヲ鑑定シ其ノ各等帽子ノ占ムル割合ヲ定メ一旦之ヲ評價シテ全部ノ價格ヲ算出ス然レトモ此ノ價格ハ直ニ買主ノ唱相場トナルニ非スシテ買主ハ之ニ依リ一打當平均相場ヲ決定シ折衝ノ上取引セララルモノトス此ノ場合ニ於テハ其ノ一團中ニ包含スル帽子ノ品質ヲ

基礎トシテ上ノ部中ノ部及下ノ部ノ三種ニ區別セララルモノトス尤モ商館取引ノ場合ニ於テハ帽子ノ「拜見」ノ際之ヲ等級別ニ區分シ評價ヲ爲シタル後一打當平均相場ヲ以テ賣買スルモノトス等級相場ハ注文取引又ハ一定ノ等級品ヲ選別シテ取引スル場合ニ行ハルモノニシテ實際ニ於テハ極メテ稀ナリ

第二節 相場

一 紙帽一打當込相場

紙帽ハ「セルロイド」引原料及水製原料ヲ以テ編製セラレ其ノ相場モ大ナル差違アリ而シテ現今「セルロイド」引原料ヲ以テ編製セララルモノハ統計ノ徵スヘキモノナキモ其ノ産額甚タ少キカ如シ而シテ以下述フル紙帽ノ相場ハ水製原料ヲ以テ編製セル帽子ノ相場ヲ示スモノトス

今大正六年以降同七年ニ至ル紙帽一打當本島平均込相場ヲ示セハ左ノ如シ

年次	種 類			人		
	男	子	婦	上ノ部	中ノ部	下ノ部
大正六年	上ノ部	中ノ部	下ノ部	平均	上ノ部	中ノ部
	八〇三	六〇九	五三三	六四二	九八二	七八九
大正七年	上ノ部	中ノ部	下ノ部	平均	上ノ部	中ノ部
	八〇三	六〇九	五三三	六四二	九八二	七八九
平均	八〇三	六〇九	五三三	六四二	九八二	七八九

年次	種 類			人		
	男	子	婦	上ノ部	中ノ部	下ノ部
大正七年	一月	二月	三月	四月	五月	六月
	六八三	六八〇	六九〇	七二五	七三〇	八〇三
	五五五	五二八	五二二	四九二	四九六	五〇九
	四七五	四四二	四三八	四四六	四五六	四七〇
	五七一	五四六	五四三	五五三	五五八	五七〇
	八二八	八二八	八三〇	八三〇	八三〇	八三〇
	七三二	七〇四	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
	六六〇	六三三	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇
	六六〇	六三三	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇
	六六〇	六三三	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇
	六六〇	六三三	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇
	六六〇	六三三	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇
平均	六八三	六八〇	六九〇	七二五	七三〇	八〇三

(臺灣總督府殖産局商工課調査)

右表中上ノ部ハ次ニ述フル如ク本島帽子ヲ六級ニ分チ主トシテ其ノ一、二等品ヲ含メルモノニシテ中ノ部及下ノ部ハ夫々主トシテ三、四等品及五、六等品ヲ含メルモノトス

然ルニ實際ニ於テハ各等品突込ヲ以テ取引セララルカ故ニ其ノ相場モ區々ニシ

テ右表ノ如ク上中下三種ニ限ラルルモノニアラス其ノ相場ハ時期ト氣配トニ依リ變動アルヲ免レスト雖近時下落ノ傾向ヲ示セリ是レ歐洲戰爭ノ爲船腹ノ不足並各國消費制限及大正七年四月米國ハ紙帽ノ輸入制限ヲ爲シタルヲ以テ之カ爲帽子ノ價格下落シ加フルニ神戸市場ニ於ケル本島帽ノ濫賣ニ依リ益不況ニ陥リタル爲ナルヘシ

今右表ニ依ルニ大正六年ニ於ケル男子帽平均相場六圓四十二錢ナリシモノ同七年ニハ六圓十五錢ニ下落シ婦人帽平均相場モ八圓二十五錢ヨリ七圓八十一錢ニ下落セリ

二 地方別相場

今大正七年十二月ニ於ケル一打當地方別込相場ヲ見ルニ左ノ如シ

地方別	男			女			平均		
	上ノ部	中ノ部	下ノ部	上ノ部	中ノ部	下ノ部	上ノ部	中ノ部	下ノ部
新 臺	1100	950	700	1100	1050	750	900	1000	1000
北 竹	750	700	580	900	750	600	670	900	750

地方別	男			女			平均		
	上ノ部	中ノ部	下ノ部	上ノ部	中ノ部	下ノ部	上ノ部	中ノ部	下ノ部
中 港	860	530	450	600	450	350	730	580	450
後 壠	530	750	450	450	750	450	570	750	450
苑 甲	970	880	640	1060	860	640	960	960	640
大 中	600	600	600	600	600	600	600	600	600
臺 頭	580	580	620	580	580	620	580	580	620
牛 化	580	650	500	900	750	650	770	750	650
彰 港	600	600	500	600	600	500	600	600	500
鹿 南	700	600	500	900	780	650	740	780	650
臺 南	700	600	500	900	780	650	740	780	650

(臺灣總督府殖産局商工課調査)

右表ニ依レハ各地相場ニ甚シキ差違ヲ示セリ即チ男子帽ニ在リテハ最高臺北ノ九圓十七錢最低後壠ノ四圓九十錢ニシテ其ノ差額四圓二十七錢ヲ示シ其ノ他ノ地方ニ於テモ各差違アリ又婦人帽ニ在リテモ男子帽ト同シク各地共平均相場ニ差違アリ即チ最高苑裡ノ十四圓最低後壠ノ六圓五錢ニシテ後者ハ前者ノ半額以下ニ過キス更ニ右表ニ依レハ臺北、中港、苑裡及大甲ノ諸地方ハ相場高ク新竹、後壠

臺中、牛罵頭、彰化、鹿港及臺南ノ諸地方ハ相場低シ是レ地方ニ依リ生産セラルル帽子ノ品質ニ優劣アリ且其ノ上中下ノ區別タルヤ各地ノ事情ニ依リ異ルカ故ニ調査ノ困難ナルニ歸スルモノトス

三 等級相場

更ニ大正五年以降ノ一打當等級相場ヲ示セハ左ノ如シ

年次	男						婦						
	一等	二等	三等	四等	五等	平均	一等	二等	三等	四等	五等	六等	平均
大正五年	12.40	11.10	10.80	9.80	8.80	10.20	12.00	10.80	10.00	12.50	9.50	8.50	10.00
同六年	14.10	10.10	9.40	8.00	7.00	9.40	12.00	10.40	10.00	12.50	9.50	8.50	10.00
同七年一月	8.10	7.00	6.80	5.80	4.80	6.40	10.00	8.80	8.00	10.50	7.50	6.50	9.00
同二月	8.00	7.00	6.80	5.80	4.80	6.40	10.00	8.80	8.00	10.50	7.50	6.50	9.00
同三月	8.00	7.00	6.80	5.80	4.80	6.40	10.00	8.80	8.00	10.50	7.50	6.50	9.00
同四月	8.00	7.00	6.80	5.80	4.80	6.40	10.00	8.80	8.00	10.50	7.50	6.50	9.00
同五月	8.00	7.00	6.80	5.80	4.80	6.40	10.00	8.80	8.00	10.50	7.50	6.50	9.00
同六月	8.00	7.00	6.80	5.80	4.80	6.40	10.00	8.80	8.00	10.50	7.50	6.50	9.00
同七月	8.00	7.00	6.80	5.80	4.80	6.40	10.00	8.80	8.00	10.50	7.50	6.50	9.00
同八月	8.00	7.00	6.80	5.80	4.80	6.40	10.00	8.80	8.00	10.50	7.50	6.50	9.00

年次	一等	二等	三等	四等	五等	平均	一等	二等	三等	四等	五等	六等	平均
大正七年九月	10.10	9.20	8.80	7.80	6.80	8.10	10.40	9.40	9.00	11.00	8.00	7.00	10.00
同十月	10.10	9.20	8.80	7.80	6.80	8.10	10.40	9.40	9.00	11.00	8.00	7.00	10.00
同十一月	9.80	8.80	8.40	7.40	6.40	7.80	10.20	9.20	8.80	10.80	7.80	6.80	9.80
同十二月	9.80	8.80	8.40	7.40	6.40	7.80	10.20	9.20	8.80	10.80	7.80	6.80	9.80
平均	9.80	8.80	8.40	7.40	6.40	7.80	10.20	9.20	8.80	10.80	7.80	6.80	9.80

(臺灣總督府殖産局商工課調査)

第十章 取引

第一節 取引ノ方法

製帽業者中資本豊富ニシテ移出業ヲ兼スル者ノ外ハ其ノ製品ヲ移出業者ニ販賣シ又製帽業者ニシテ同時ニ仲買業ヲ兼營スル者ハ他ノ製帽業者ヨリ買入レタル帽子ト共ニ移出業者ニ販賣スルモノトス尙別ニ獨立セル仲買人アリテ製帽業者ヨリ買入レタル帽子ヲ移出業者ニ賣込ムモノトス尤モ時トシテ移出業者ニ委託販賣ヲ爲スコトアリ此ノ場合ニハ賣上高ノ一分乃至三分ノ口錢ヲ支拂フモノトス仲買ノ計算ハ賣買共自己ノ計算ナル場合アリ又單ニ口錢ヲ取得スル場合アリ

爰ヲ以テ移出業者ナキ地方ニ於テ生産セラレタルモノハ他地方移出業者ノ手ニ依リ移出セラルルモノトス即チ新竹中港後壠苗栗地方ニ於テハ従前少數ノ移出業者アリテ神戸市場ニ直送シタルモ昨年以來移出業者ハ總テ營業ヲ中止シタル爲此ノ地方ノ生産品ハ大甲及牛罵頭ノ移出業者ニ販賣又ハ委託販賣ヲ爲スニ至レリ又臺中廳鹿港支廳管内ニ製セララルルモノハ多ク下等品ニシテ是等ハ昨年迄ハ鹿港街在住蔡道潛ナル有力移出業者ノ手ニ依リ移出セラレタルモ同人昨年蹉跌以來事業ヲ中止シタル爲現今主ニ牛罵頭彰化ノ移出業者ニ販賣セラルル斯ノ如クシテ現今本島ニ於テ生産セラルル帽子ノ大部分ハ大甲牛罵頭及彰化ノ移出業者ニ依リ取扱ハレツツアリ

今大正七年ニ於ケル帽子ノ集散ヲ地方別ニ依リ表示スレハ左ノ如シ

地 域	管内生産高	管外ヨリ搬入高	管外へ搬出高	島内消費高	島外移出高
新竹廳帽蓆同業組合管内	八二二〇二	—	三六八二〇	—	四六〇九二
大甲帽蓆同業組合管内	三〇四七二四	一八四二五	二二二三	—	四六〇九二
計	一一一六七四六	一八四二五	三六八二〇	—	九二一〇二

牛罵頭帽蓆同業組合管内	中部帽蓆同業組合管内	計
一一九〇一五	六七五六一〇	一八六五二五
三〇六二四	一一一三九	四一七六三
六六三〇	一九一〇〇	二五七三〇
一〇〇〇	九六〇四	一〇六〇四
一八四二五	五九七九六	二九四〇八

備考 大甲帽蓆同業組合管内ハ大正七年四月ヨリ同年十二月ニ至ル九箇月間トス

第二節 出張員及商館賣込

移出業者カ製品ヲ移出スルニ當リテハ有力ナル移出商ハ神戸ニ出張員ヲ派遣シテ商館賣込原料ノ買入ニ從事セシム出張員ハ多クハ移出業者ノ親戚ニシテ店主ヨリ給料ヲ受クルモノトス

今試ニ大正七年十一月同地ニ於ケル出張員ヲ有スル者及其ノ住所出張所所在地出張員氏名ヲ掲クレハ左ノ如シ

出張員氏名	住 所	移出業者住所	移出業者氏名
陳 金 陣	神戸市八幡通五丁目一〇四ノ一	後壠庄一一〇	陳 金 陣
元成組支店 林 柯 方	同 三宮町一丁目	通霄街	元 成 組
莊 金 和	同 磯邊通六丁目一〇ノ三	苑裡庄	大 和 商 行

陳 貴 心	神戶市長狹通三丁目二二ノ一〇	苑裡庄	陳 貴 風
吳 海 涼	同 八幡通五丁目二九ノ一	大甲街三四〇	元 泰 商
柯 清 標	同 八幡通五丁目一四一ノ一	同 二一七	柯 德 年
楊木宮、曾圭角、王永昌	問 下山手通	牛罵頭街	蔡 年 亨
蔡 幽 香、蔡 白 熾	同 三 宮	同	蔡 金 福
蔡 全	同 下山手通	同	蔡 福 金
蔡 謀 匏	同 同 通	同	蔡 福 金
林 清 忠	同 磯邊通	同	林 源 螺
呂 佳 忠	同 三宮町一丁目一八〇ノ一	彰化街土名西門二七七	呂 桂 源
林 全	同 八幡通五丁目二九ノ一	同 一八八	林 天
蔡 坤 培	同 磯邊通四丁目四二ノ七	同 北門二五三	蔡 天 品

出張員ハ通例直接商館賣込ヲ爲スモノナルモ「プロカー」ノ得意商館ノ買値高キトキハ之ニ販賣ヲ託スル場合モアリ殊ニ商館ニ專屬ノ「プロカー」ヲ有スル場合ニハ之ヲ經ルヲ便宜トス「プロカー」ノ口錢ハ賣上代金ノ一分ナリ又商館番頭アリテ帽子受入事務ニ従事スルモノトス

商館トノ取引方法ハ大別シテ註文取引及非註文取引ノ二トナス註文取引ハ豫メ見本ヲ提出スルカ又ハ之ヲ受取り品質形狀寸法價格數量期日其ノ他ノ條件ヲ定

メタル契約ヲ締結シ取引ヲ爲スモノニシテ非註文取引ハ任意ニ帽子ヲ移出シ之ヲ最高値ノ商館ニ賣込ムカ又ハ「プロカー」ニ託シテ其ノ得意商館ニ賣込マシムルモノトス

商館トノ取引ハ商館カ製品ヲ「拜見」シテ爲スモノニシテ製品ヲ商館ニ持込ムトキハ商館ハ受取證ヲ交付スルモノトス

拜見ヲ爲ストキハ賣込人ノ立會ヲ爲スコトアルモ多クハ立會フコトナク商館カ單獨ニ決定スルモノトス而シテ拜見ニ要スル日數ハ商館外國積出關係及商況ノ繁閑等ニ依リ一定セスト雖普通三日乃至七日ナリトス

拜見ハ豫メ商館ノ定メタル等級ニ從ヒ製品ノ鑑別ヲ爲スモノニシテ其ノ等級ハ產地及紙帽林投帽ノ別ニ依リ異リ且各商館ニ依リテモ其ノ格付法ヲ異ニセルモ臺灣林投帽ノ一等品ハ沖繩林投帽ノ三、四等品ニ取扱ハレ岡山紙帽一等品ハ沖繩紙帽二等品ニ取扱ハルル點ハ各商館ニ於テ一致スルカ如シ

而シテ品質不良ナルモノハ「ベケ」品トナルモノトス「ベケ」品ノ割合ハ當業者ノ談ニ依レハ普通五分ヲ占ムト云フ「ベケ」品ハ他ノ合格品ト突込賣買セララルコトアル

モ價格ヲ低廉ニスルトキハ何レノ商館ニテモ買取ルモノトス而シテ本島帽子ハ其ノ移出セラルル前ニ當リテ商館ノ鑑定ニ應スル爲豫メ下鑑定ヲ爲スコトナク一ニ商館ノ鑑定ニ依リテ取引セラルルカ故ニ商館ハ同一ノ註文ヲ數名ノ出張員ニ申込ミ製品鑑定ノ際各出張員ヨリ精良品ノミヲ引取り他ハ悉ク引取ヲ拒絕セラルルヲ以テ取引上不利ヲ蒙リツツアリ

第十一章 帽子ノ移輸出

第一節 帽子ノ検査

帽子ヲ移輸出セムトスル場合ニ於テハ豫メ總督府帽子検査所ニ於テ検査ヲ受ケサルヘカラス尤モ同業組合ヲ組織シタル場合ニ於テハ其ノ組合員ハ検査所ノ検査ヲ受クル以前ニ於テ同組合ノ検査ヲ受クルコトヲ要ス而シテ同業組合ニ於テハ現今検査手数料ノ名目ヲ以テ帽子一箇ニ付金一錢ヲ徴收スルモ事實帽子ノ検査ヲ行フニアラス單ニ同業組合ノ證紙ヲ帽體ノ裏面ニ貼付スルノミ

總督府帽子検査所ハ明治四十四年府令第四十一號臺灣帽子検査規則ニ依リ設置

セラレタルモノニシテ現在島内主要地十四箇所ニ設置セラレタリ其ノ名稱及所在地左ノ如シ

検査所名稱	所	在	地
臺	北	臺北廳大加納堡大稻埕	
新	竹	新竹廳竹北一堡新竹街	
中	港	同 竹南一堡三角店街	
後	壠	同 苗栗一堡後壠庄	
苗	栗	同 苗栗街	
通	香	同 苗栗二堡通霄街	
苑	同	同 苑裡街	
大	甲	臺中廳苗栗三堡大甲街	
臺	中	同 臺中	
牛	頭	同 大肚上堡牛頭街	
彰	同	同 線東堡彰化街	
鹿	同	同 馬芝堡鹿港街	
臺	南	臺南廳臺南市	
媽	宮	澎湖廳東西瀾媽宮街	

帽子ノ検査ヲ受クルニ先チ帽子ヲ漂白スル爲硫黄ヲ以テ燻蒸スルモノトス而シテ其ノ装置ハ一定セスト雖簡單ニシテ地下ニ長サ約一尺直径約五寸ノ横溝ヲ穿チ其ノ上ヲ土ニテ蔽ヒテ竈ヲ造リ其ノ一端ハ焚口トシ板又ハ煉瓦ヲ以テ閉塞スルヲ得ルモノトシ他ノ一端ハ四尺四方ノ燻蒸箱ノ底部ノ孔(直径約五寸)ニ連結セルモノニシテ燻蒸箱ハ其ノ上部ニ蓋ヲ有ス而シテ其ノ燻蒸ハ検査ヲ受クヘキ日ノ前日又ハ前々日ノ夕刻ニ開始スヘキモノニシテ其ノ方法ハ帽子ヲ箱中ニ積重ネタル後蓋ヲ覆ヒテ其ノ間隙ヲ密閉シ然ル後皿ニ盛リタル硫黄ニ點火シテ竈中ニ入レ其ノ焚口ヲ塞キ約三時間之ヲ燻蒸シタル後火ヲ消シ其ノ儘放置シテ翌朝ニ至リ帽子ヲ取出スモノトス

第二節 検査ノ手續及成績

帽子ノ検査ヲ受ケントスル者ハ先ツ支應又ハ應ニ赴キ検査ヲ受クヘキ數量ニ對シ規定ノ手數料紙帽林投帽各一箇二錢大甲帽一箇一錢ヲ納付シテ手數料納付證ヲ受取リ現品ト共ニ検査所ニ持參シ検査ノ申請ヲ爲スモノトス帽子ノ検査ハ(一)原料(二)漂白又ハ色合(三)形狀(四)編方(五)耳組ノ五點ニ就テ之ヲ行フ検査ハ肉眼鑑定

ニシテ一定ノ標準帽ニ照シ合格不合格ヲ決定スルモノナルカ故ニ各人其ノ見ル所ヲ異ニシ又同一人ト雖前後ニヨリテ検査ニ差異アルヲ免レス然レトモ此ノ検査ハ帽子ノ品質ノ下落ヲ防キ本島帽子ノ聲價維持ノ爲必要ナリトス斯ノ如クシテ合格シタル帽子ニハ帽體ノ裏面ニ合格證ヲ貼付シ其ノ上ニ検査所印ヲ押捺シ不合格帽子ニハ不合格證ヲ帽體ノ裏面ニ烙印ヲ爲シテ荷主ニ交付ス又手數料ハ一回毎ニ納付スルヲ原則トスレトモ後納認可ヲ受ケタルモノハ數回ノ検査ヲ受ケタル後右手數料ノ納付ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ検査済ノ帽子ハ直ニ検査所ニ於テ包裝ヲ爲シ其ノ表面ニ検査所ノ證印ヲ受クルヲ常トスルモ時宜ニ依リ一旦之ヲ自宅ニ引取り假包裝ヲ爲シタル後再ヒ之ヲ検査所ニ持參シ包裝ヲ了シ叙上ノ如キ證印ヲ受クルコトアリ検査ヲ受ケサル帽子又ハ検査證ヲ除去シタル帽子ヲ移輸出シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處セラル

今大正元年ヨリ同七年ニ至ル帽子検査成績ヲ見ルニ左ノ如シ

年次	大甲帽		帽	林投帽		帽	紙帽		帽
	合格	不合格		計	合格		不合格	計	
	合格	不合格	計	合格	不合格	計	合格	不合格	計
	合格	不合格	計	合格	不合格	計	合格	不合格	計

大正元年	五二八四九	二二六四四	六四四九三	二二〇	九四四一八〇	一五四〇五七一	〇八三	一〇〇
同二年	三三六四五	六四二六	三九〇六一	一六一四九	九四九四九	一一一四七八	〇七	〇
同三年	四一四四二	一七六三	四三二〇五	〇四二〇七	八五〇	二〇七三〇	〇一	〇
同四年	三五四七四	五五一	三六〇一五	〇一四〇三	二四四	五六六四六	〇三	〇
同五年	二九八四一	三三五	三〇一九六	〇一九九	三八五七	一四三九三	〇七	〇
同六年	一七四〇五	六九六	一八一〇一	〇四	五三八三〇	四七〇六一	〇八	〇
同七年	五六九九三	二四二二	五九四一五	〇四	一四〇四〇	二五〇九	一五三〇	〇

右表ニ依レハ大甲帽及紙帽ハ不合格ノ割合逐年減少セルト共ニ其ノ割合モ大正六年及同七年ニ於テハ前者ハ四分後者ハ二分ヲ示スニ過キサレモ林投帽ハ反之不合格ノ割合大正元年ノ一割四分ヨリ同三年ノ一分ニ減少シタルモ其ノ後漸次増加シテ同七年ニハ一割五分ヲ算シ各種帽子中不合格ノ割合最大ナリ不合格ノ原因ハ汚染編製法粗雑及色合不良ナルニ因ルモノ多シ

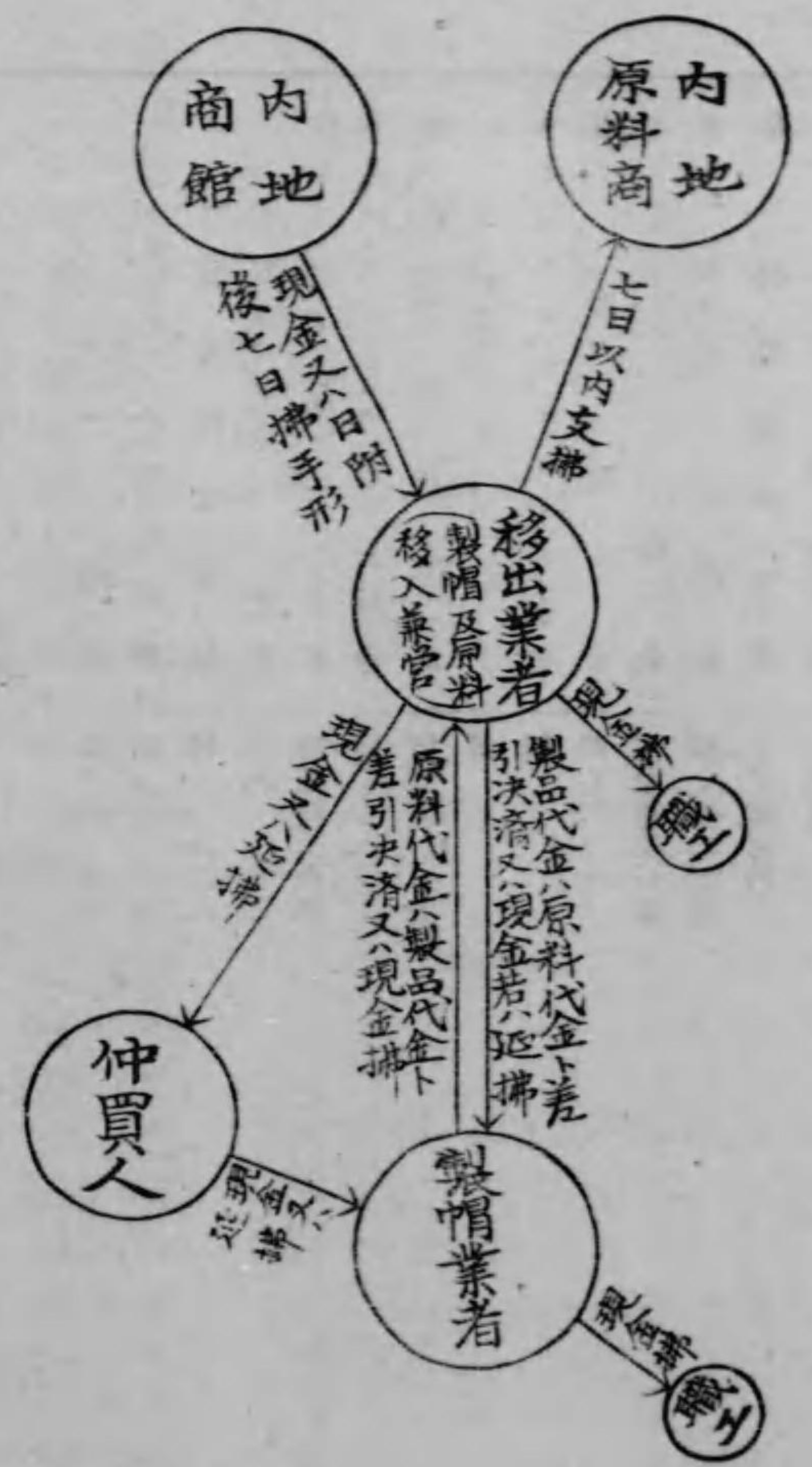
第三節 移輸出高

本島産紙帽子ハ少許ノ外國直輸出ヲ除キ他ハ一旦内地ニ移出セラレ其ノ一部ハ東京並大阪等ニ於テ型入仕上ヲ爲シタル後内地消費ニ充テラルルモ大部分ハ外國ニ輸出セララル即チ帽子ノ需要ハ内國ヨリモ外國殊ニ亞米利加合衆國ニ多シ而シテ歐米ニ輸出セララルモノハ内地ニ於テハ加工セララル所ナシト雖南洋ニ向ケ輸出セララルモノハ内地消費ノ分ト同シク仕上ヲ爲スモノトス
今帽子検査所ニ於ケル移輸出検査ノ際検査申請人ヨリ申告セル大正五年ヨリ同七年ニ至ル間ニ於ケル仕向地別紙帽移輸出高左ノ如シ

仕向地	大正五年	自十二月至十一月	大正六年	大正七年
内地	六二七五五	六二七五五	三二九六二	三二五九二
朝鮮			六三	二四
那港			一〇七八九	七八五四
坡哇			一四〇	一〇三
哇哇			五五三	八〇
貨國			五二四	七〇八
律			三三	—
計	六二七五五	六二七五五	三三三〇一	三二四一四

第十二章 金融

製帽業ハ原料ヲ仕入レテ之ヲ職工ニ編製セシムルモノナルヲ以テ之ニ要スル資金ハ全部運轉資金ナリトス今紙帽ニ關スル資金需要供給ノ狀況ヲ圖示スレハ左ノ如シ



- 一、移出業者ハ内地商館ニ帽子ヲ販賣スルト共ニ内地原料商ヨリ原料ヲ購入ス
- 二、帽子ノ代金ハ現金又ハ日付後七日拂手形ヲ以テ支拂ヲ

- 三、移出業者ハ其ノ製帽業ヲ兼營スル者ハ職工ニ帽子ノ編製ヲ爲サシメ工賃ハ現金拂トス
- 四、移出業者ハ原料ヲ製帽業者ニ販賣ス原料代金ノ支拂ハ製品ヲ得ル迄延期シ製品代金ト差引決済ヲ爲スコトアリ又現金拂ナルコトモアリ
- 五、製帽業者ハ移出業者ヨリ購入シタル原料ヲ以テ職工ニ帽子ノ編製ヲ爲サシメ工賃ハ現金拂トス
- 六、製帽業者ハ製品ヲ移出業者又ハ仲買人ニ販賣ス移出業者ニ販賣スルトキハ原料代金ノ支拂ヲ延期セル場合ニハ製品代金ト差引決済スルモ其ノ他ハ現金拂又ハ延拂ナリトス
- 七、仲買人ニ販賣スル場合ハ普通現金拂ナルモ延拂ナルコトモアリ仲買人ヨリ移出業者ニ製品ヲ販賣スルトキハ現金拂ヲ普通トスルモ延拂ナルコトモアリ

斯ノ如ク製帽業者ノ要スル資金ハ原料代金及工賃ノ二者ニシテ之カ需要ノ最盛時期ハ八月ヨリ十二月迄ナリトス是レ此ノ期間ニ於テ翌年帽ノ製造及移出ニ繁忙ヲ極ムルヲ以テナリ而シテ製帽業者ノ中移出業ヲ兼ヌル者ハ資金豊富ニシテ信用アルヲ以テ銀行又ハ信用組合等ヨリ必要ニ際シ資金ノ供給ヲ受ケ得ヘキモ自餘ノ製帽業者ハ資金薄弱ナルヲ以テ信用組合又ハ他ノ商人ヨリ借入ルルモノトス普通銀行利子ハ日歩二錢五厘信用組合利子ハ日歩三錢五厘商人間ノ利子ハ日歩六錢ナリトス

第二編 製帽業改善策

本島ニ於ケル製帽業ノ現況ハ前編ニ之ヲ述ヘタリ本編ニ於テハ其ノ改善策ニ付陳述セムトス

製帽業改善ノ方法ハ分チテ二トス一ハ從來ノ缺點ヲ匡正スルコトニシテ二ハ新方法ノ採用ナリ然レトモ此ノ二者ハ理論上區別スルハ容易ナレトモ實際上之ヲ區別スルコト容易ナラサルカ故ニ以下適宜ノ順序ニ依リ改善ノ方法ヲ研究セン

第一章 帽子編製法ノ改善

第一節 製帽原料ノ統一

原料ニ付論スヘキハ先ツ之ヲ統一スルノ要アルコト是レナリ現今本島ニ於テ使用セララル紙帽原料ハ種類多ク又同種ノ原料ニテモ產地ヲ異ニスルニ依リ品質ニ良否アリ然ルニ原料移入商ハ單ニ廉價ナルモノヲ撰ヒテ移入スルカ故ニ原料ハ一定セサルノミナラス其ノ品質漸次下落スルノ傾向アリ而シテ粗製原料ハ塗

料ノ膠着力弱クシテ編製ニ際シ直ニ剝脱スルモノヲ生シ又ハ防水力ニ乏シク其ノ他紙質脆弱ナルモノ及原料ノ色合不良ナルモノ等アリテ甚シク製品ニ影響スルモノナルヲ以テ帽子ノ改良ニ際シテハ原料ヲ統一シ之ヲ向上セシムルヲ第一トス而シテ其ノ統一ノ方法ハ總督府又ハ同業組合ニ於テ原料ノ検査ヲ爲シ粗悪原料ノ移入ヲ防壓スルヲ可トス總督府ニ於テモ既ニ原料統一ノ必要ヲ認め目下之カ標準決定等ニ就キ研究中ナリト云フ

第二節 原料支給法ノ改善

帽子ノ編製法ニ關シテハ種々改良ヲ要スヘキ點アリ左ニ之ヲ説明セン

一 原料交付ノ際豫メ製品ノ等級寸法及形狀ヲ指定スルコト

現在ニ於テハ帽子ノ製造ニ關シ一定ノ標準ナク只漫然職工ノ編製スル所ニ任スルカ故ニ編製シタル帽子ニ統一ナク粗製濫造ニ陥ルヲ以テ之ヲ匡正スルニハ帽子編製ニ當リ職工ヲシテ一定ノ等級寸法及形狀ノ帽子ヲ編製セシムル爲原料交付ノ際編方仕様書ヲ添付スルヲ可トス斯クスルトキハ帽子ノ不統一及劣悪品ヲ編製スルコトナシ

二 原料ヲ直ニ編製シ得ル様一定ノ長サニ切斷シテ交付スルコト

現今原料ヲ交付スルニハ原料一卷ヲ帽子一箇分トシテ重量ヲ秤量シテ交付シ職工ハ帽子ノ編製ヲ爲スニ當リ適宜ノ寸尺ニ原料ヲ切斷スルモノトス然ルニ職工ハ編製ノ工程ヲ早カラシムル爲帽型ヲ細小ニシ製品ノ寸法不足ヲ來シ又帽子ノ編製ハ原料ノ増減ヲ爲スコト容易ニシテ僅少ノ原料ヲ減スルモ帽子ヲ編製シ得ルカ故ニ職工ハ編製ニ當リ粗編ヲ爲シ以テ其ノ工程ヲ早カラシムルト共ニ原料ヲ竊取スルニ至ルノ弊アリ尤モ製帽業者ハ帽子ヲ受入ノ際更ニ秤量シ前ニ交付セル原料ニ不足ナキヤヲ確メ又帽子ノ品質如何ニ依リテ工賃ヲ決定スルモ製品ノ寸法編製法等ニ就キ一定ノ方式ノ下ニ之ヲ検査シテ受入ルルニアラサルカ故ニ自然斯ノ如キ弊害ヲ誘致セルモノトス茲ニ於テカ一方ニ於テハ原料ノ取扱ヒ粗慢ニ流レ原料ノ損失ヲ爲スト共ニ粗製濫造ノ因ヲ爲スニ至ルモノニシテ其ノ害ヤ鮮カラスト云フヘシ然ルニ今各部所要原料ノ寸法ヲ定メ之ニ依リ原料ヲ切斷シテ交付スルトキハ以上ノ弊害ハ悉ク之ヲ除去スルコトヲ得ヘシ尤モ職工技術ノ程度ニ依リ編製法ヲ異ニスルカ故ニ原料切斷ノ寸法ハ必スシモ一律ニ依ラ

ス職工ニ適當ナル寸尺ニ切斷シ交付スルヲ可トス(切斷ハ約三種位ナルヘシ)而シテ此ノ方法ハ現今通霄ノ一當業者カセルロイド引原料ヲ交付スルニ當リ實行セラルモノトス

第三節 帽子編製技術ノ改善

一 帽子ヲ汚染セシメサルコト

帽子ノ編製ニ當リテハ現在ニ於テハ帽子ヲ汚染スルコト多シ是レ職工自宅ノ構造上及取扱ノ粗漏ニ因リ生スルモノニシテ其ノ汚染ノ箇所ハ帽縁ニ多クシテ帽胴ニ少シ是レ帽胴ニテ殖サレタル原料カ編製漸ク進ミ帽縁ニ及フ迄ニハ相當時間ヲ要スルノミナラス原料ハ幾十回ノ扱締ヲ爲スヲ以テ自然塵芥、手垢等ヲ附著スルニ至ルモノニシテ原料ノ尖端四五寸ノ箇所ハ殊ニ汚染シ易キモノナリ而シテ此ノ汚染部分カ帽縁ニ於テ殖サレタル新原料ト交叉スルトキハ茲ニ所謂縞ヲ出現スルニ至ルモノトス故ニ原料ノ取扱ヲ可成丁寧ニシ就業前又ハ從業中ト雖一時編製ヲ中止シ再ヒ編製ニ從事スル前ニ於テ指頭ヲ洗滌シ其ノ他風塵及油煙ヲ避クルニ在リ

二 職工ニ等級觀念ヲ注入シ技術ノ進歩ヲ圖ルト共ニ編製法ヲ一定スルコト
現今製出セララル帽子ハ多ク下等品ニ屬シ其ノ編製法多種多樣ニシテ毫モ統一セルヲ見ス

(イ) 職工ハ製帽業者ヨリ指示セラレタル等級ヲ了解セス漫然編製シ

(ロ) 工賃ノ收得上下等品ヲ多數編製スルヲ好ミ

(ハ) 原料ノ殖シ方亂雜ニシテ動モスレハ殖シノ手數ヲ免カレ同時ニ原料ヲ盜匿シ
(ニ) 各部ノ寸法一定セサルトニ因ル

從テ是等ノ缺點ヲ除去スルニハ一等ヨリ六等迄ノ見本帽ヲ一庄ニ一組宛備付ケ職工ニ等級ノ觀念ヲ養成シ帽型ノ細小ナルモノハ之ヲ普通ノ寸法ニ統一シ技術ノ程度ニ依リ工賃ヲ區別シ上等帽編製職工ヲ保護獎勵スルヲ可ナリトス

三 編製法ヲ均整ナラシムルコト

現在ニテハ帽子ノ編製ヲ爲スニ當リ編製ノ困難ナル箇所ハ一家内ノ熟練職工之ヲ編ミ其ノ他ハ不熟練職工之カ編製ヲ爲スヲ見ル之カ爲帽子ノ不均整ヲ來スニ至リ帽胴帽縁ニ於テ編製ニ精粗アリ殊ニ帽胴ハ其ノ編製法他ノ部分ニ比シ拙劣

ナリトス此ノ習慣ハ家内工業ニアリテハ之ヲ除去スルコト容易ナラサルヘキモ可成職工ヲシテ細心ノ注意ヲ拂ハシメ能ク前者ノ編製ニ準シテ編方ノ均整ヲ計ルヲ可トス

又同一職工ノ編製スル場合ニ在リテモ帽胴ノ編製法他ノ部分ニ比シ拙劣ナルハ本島帽子ノ通弊ナルヲ以テ之ヲ匡正シ帽體各部ノ編製法ノ均整ヲ計ルノ要アルモノトス

第四節 編製上ノ指導及上等帽工賃ノ引上

帽子ノ編製ハ前述ノ如ク本島婦女子ニ依リテ爲サルルモノニシテ而モ是等職工ハ規則的ニ技術上ノ指導ヲ受ケタルコトナク他ノ製帽職工ニ就キ習得スルト且其ノ智識ノ程度低キカ故ニ之カ改良ヲ計ルノ念ニ乏シキハ明ナリトス即チ帽子ノ編製ニハ自ラ一定ノ準繩アルモ粗製ヲ爲サントセハ如何ナル粗製帽ト雖之ヲ編製シ得ルヲ以テ職工ハ單ニ多クノ工賃ヲ收得セントシ編製法粗雜ニ流ルルノ弊アルノミナラス原料ヲ盜匿スルコトアルヲ以テ爲ニ帽子ノ編製粗雜トナラサルヲ得ス

然ルニ内地及沖繩ニ於テハ根本的ニ其ノ技術ヲ習得セシメツツアリ即チ其ノ原料ハ帽子ノ寸法ニ從ヒ太サ長サ等ヲ一定スルノミナラス其ノ使用箇所ヲ一定シ「殖シ」方ヲ劃一シテ職工ノ隨意ニ繼キ足シスルヲ許サス殖シノ本數モ自ラ一定シツツアルヲ以テ殆ト一定ノ製品ヲ得ルモノトス

以上ノ方法ハ本島製帽職工ニ對シテモ必要ナリトス從テ適當ノ方法ニ依リ其ノ技術ヲ指導スルノ要アルモノトス

製帽職工ハ上等帽ヲ編製セスシテ下等帽ヲ多ク編製スルノ利益ナルコトハ既に述ヘタルカ如シ是レ工賃ノ上等帽ニ有利ナラスシテ下等帽ニ有利ナルノ結果ナリ詳言スレハ上等帽ヲ編製スルニ要スル勞力注意ノ程度及時日ニ比例シテ工賃ノ收得比較的少キニ依ルモノトス例ヘハ上等帽編製職工ノ一箇月間ノ收入三圓八十四錢ナルニ下等帽編製職工ハ五圓八十九錢ノ收入アリ故ニ本島ノ帽子ヲ向上セシムトセハ上等帽ノ工賃率ヲ適度ニ引上ケサルヘカラス是レ製帽業者ノ苦痛トスヘキ所ナルヘキモ現今粗製濫造ニ陥リツツアル本島帽子ノ改良ヲ計ルニハ極メテ必要ナル事項ナリ若上等帽ノ工賃ノミ引上クルヲ困難トセハ上等帽

ノ工賃引上ニ代ヘ下等帽ノ工賃ヲ引下クルモ可ナリ

第五節 優良職工ノ養成

本島ノ帽子ハ前述ノ如ク全ク家内工業ニシテ智識幼稚ナル本島人婦女子ノ編製スル所ニ係リ而モ是等ノ職工ハ規則的ニ技術上ノ指導ヲ受クルコトナキカ故ニ編製粗雑トナリ優良帽編製セラレサルハ前述シタル處ノ如シ故ニ之ヲ改善スルニハ優良職工ノ養成ヲ必要トス而シテ其ノ方法ハ總督府ノ養成及職工ノ競技並品評會ノ開催トス

一 總督府ノ養成

職工養成ニ關シテハ總督府ハ同業組合ノ施設ト相俟テ技術指導員ヲ派出シ臺中應二林及北斗ノ二地方ニ於テ職工ノ養成ヲ爲シ二林ハ既ニ養成ヲ了シ現在ハ北斗ニ於テ養成シツツアリ二林地方ニ於テハ製帽傳習ヲ終ヘタル職工二百人アリ北斗製帽傳習場ハ北斗街ノ中央約三十四坪ノバラツク式建物ヲ有シ目下傳習職工三十六人内公學校卒業生三人アリ尙帽子第一箇目ノ製造ノ半ニシテ已ニ優秀ナル技師ヲ示シ二箇目ヨリハ賣品ニ適スルモノアリ又澎湖島ニ於テモ技術指導

員ヲ派出シテ職工ノ養成ヲ爲シツツアリ此ノ種ノ養成ハ將來益獎勵スヘキモノトス

二 帽子品評會ノ開催

製帽業ハ家内工業ニシテ技術ノ比較研究ヲ爲スノ機會乏シク其ノ技術ノ優劣ハ直接工賃ニ影響スルノミナリ而シテ製帽職工ハ名譽心又ハ競争心ナク單ニ工賃收得ノ多寡ニ依リ其ノ技師ヲ定ムルヲ以テ技術ノ進歩ハ之ヲ期スルヲ得ス故ニ現在ノ習慣ハ之ヲ打破セサルヘカラス而シテ之ヲ爲スニハ官憲又ハ同業組合等ニ於テ競技會又ハ製品品評會ヲ開催シ優良職工ヲ表彰シ之ヲ獎勵保護スルノ要アリ而シテ之カ實行ヲ見タルハ大正七年八月中部同業組合ニ於テ製品品評會ヲ開キタルノミニシテ未タ全般ニ行ハレス故ニ各產地ニ於テ競技會又ハ品評會ヲ行ヒ更ニ本島全般ニ互ル品評會ヲ開催シ本島帽ノ改良發達ヲ期セサルヘカラス

第一章 帽子検査手数料ノ輕減

帽子一箇ニ付現今ニ於テハ三錢ノ検査手数料ヲ徴セラル即チ同業組合一錢總督

府帽子検査所二錢是レナリ然ルニ本島帽子ノ一箇當平均價格ハ大正七年ニ於テハ四十八錢ニシテ其ノ検査手数料ニ對スル割合ハ六分二厘五毛ノ高率ヲ示セルヲ以テ本島帽子ニハ苛重ノ負擔タルモノトス且右検査手数料ハ内地ニ於ケル検査手数料ニ比スルモ高率ナリトス

今岡山兵庫沖繩各縣ニ於ケル検査手数料ヲ見ルニ左ノ如シ

縣	名	検査手数料	同業組合検査手数料	備考
岡山	山	八	八	
兵庫	庫	三	五	
沖繩	繩	八・三		縣検査手数料一打十錢同業組合手数料ハ組合員ニ割當ニシテ一個三厘位ナリ

即チ最高沖繩一錢一厘三毛ニシテ最低兵庫五厘ナリ而シテ右諸縣ノ製品ハ本島製品ニ比シ品質良好ニシテ價格モ亦高價ナリ而モ本島検査手数料ノ三分ノ一乃至六分ノ一ニ過キサルナリ故ニ今後本島帽カ是等内地製品ト競争シテ勝ヲ制セシニハ總督府及同業組合ノ検査手数料ヲ輕減スルノ要アルヘシ

第三章 運送方法ノ改善

帽子ノ島外輸送ハ小包郵便ニ依ル從テ其ノ荷造ハ小包郵便引受斤量ノ限度タル一貫六百匁迄ヲ一括シテ爲スモノトス而シテ其ノ箇數ハ帽子ノ種類ニ依リ異リ通常小供帽百箇乃至百二十箇男子帽六十五箇乃至八十箇婦人帽五十箇乃至六十箇トシ之ヲ積重ネ上下兩端ヲ厚紙ニテ蔽ヒ綿布ヲ以テ包ミ(新竹應下ニ在リテハ同業組合カ貸與セル木綿製ノ袋ニ入ル)折目ヲ縫ヒ縫目ニ帽子検査所ノ認印ヲ受ケ郵便局ニ託送ス而シテ之ニ要スル荷造費ハ包紙及絲代二錢袋代五錢合計七錢ヲ要スルモノトス尤モ袋ハ一枚三十五錢ヲ要スレトモ一枚ノ袋ハ普通七度使用ニ堪フルカ故一五錢ニ相當スルモノナリ斯ノ如ク帽子移出ヲ小包郵便ノ方法ニ依ルハ其ノ迅速確實ナルニ依ルモノナリト雖小包郵便ノ料金ハ普通運賃ニ比シテ高價ナルヲ免レヌ即チ其ノ一回(平均男子帽八十箇)ノ積送ニ要スル小包料金ハ八十五錢ニシテ一箇當リ一錢六毛ノ運賃ヲ要ス然ルニ之ヲ普通貨物トシテ運送業者ニ託送スル場合ニ於テハ一箇當八厘五毛ニテ足ルヘシ今其ノ計算ヲ示セ

ハ左ノ如シ

帽子六十打當運賃(牛罵頭神戸間)

イ、汽車賃(大肚基隆間)

ロ、汽船賃(一等十二才)

ハ、產地ヨリ驛迄臺車賃

ニ、汽車積込及積卸賃

ホ、倉入及倉出賃

ヘ、庫敷料

ト、汽船積込賃

チ、神戸水揚賃

リ、配達賃

ヌ、保険料(特擔分損)

合計

即チ運賃諸掛六圓十五錢ヲ要シ之ヲ七百二十箇ニ割當レハ一箇當八厘五毛トナ

〇・四二^円

二・七三

〇・二〇

〇・一六

〇・〇六

〇・三二

〇・二二

〇・四〇

〇・三〇

一・四四

六・一五

リ小包郵便ニ依ル場合ニ比シ二厘一毛ノ利益ヲ見ルモノトス且運賃及諸掛ハ貨物ノ數量ヲ増加シ一定ノ運送業者及運送取扱業者ト特約スル場合ニ於テハ尙削減ノ餘地アリ加之紙帽ノ運送ニ大甲帽林投帽ノ如ク五割引ノ特典ヲ與フルトキハ前陳汽船賃ハ其ノ半額トナルヘク從テ一箇當帽子運賃ハ六厘六毛トナルヘシ(從來大甲帽林投帽ハ本島特産品ナリトノ理由ヲ以テ運賃五割引ナレトモ今日ニ於テハ此ノ如キ特典ハ實際ニ於テ利益ナシ寧ロ紙帽ニ之ヲ均霑セシムルヲ正當トス)

第四章 産業組合ノ設立

第一節 産業組合設立ノ利益

製帽業衰退ノ原因カ前述ノ如ク大戰ノ影響ト同業者ノ不正競争ニ在リトセハ今ヤ大戰ハ已ニ終熄シ各國ノ經濟狀態漸次平常ニ復スヘキモノナルカ故ニ大戰ニ因ル外部的不振ノ原因ハ自然ニ排除セララルニ至ルヘク從テ殘ル處ハ不正競争ヲ廢止スルニ在リ而シテ當業者不正競争ノ廢止ハ産業組合ノ設立及同業組合ノ

活動ニアリトス而シテ同業組合ニ付テハ後章ニ述フヘキカ故ニ爰ニハ産業組合ニ付テ説述セム

抑モ産業組合ハ資力信用薄弱ナル者カ其ノ共同ノ出資ニ依リ組合ヲ作り組合ノ力ニ依リテ各組合員ノ事業ヲ發達セシメントスルモノニシテ普通ノ會社組合等ト異リ所得稅營業稅ノ免除ノ特典アルノミナラス勸業銀行等ヨリハ無擔保資金借入ノ便利ヲ有スルモノナリ而シテ産業組合ニハ信用組合生産組合購買組合販賣組合ノ四種アリト雖本島製帽業ノ現狀ニ照シ設立ヲ要スヘキモノヲ信用購買販賣組合ナリトス

今本組合設立ニ依ル利益ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 製帽業者金融ノ改善ヲ爲スコト

現今製帽業者ニ對シテハ特別ノ金融機關ナク銀行信用組合又ハ他ノ商人ヨリ資金ノ融通ヲ受ケ居ルモ是等ノ方法ハイ資産アル者(ロ)信用組合ニ加入セル者(ハ)相當信用アル者ニ限ラルルヲ以テ製帽業者全體ノ金融圓滑ナラス從テ製品ノ投資ヲ爲ササルヘカラサルニ至ル場合ナキニアラス然ルニ産業組合ヲ設クルトキハ

組合員ノ零碎資金ノ貯蓄機關トナルト共ニ銀行ヨリ低利ナル資金ノ貸付ヲ受ケ以テ組合員ニ資金供給ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ當業者ノ金融ヲ改善スルコト極メテ大ナリ

二 統一シタル原料ヲ有利ニ購入スルコトヲ得

移出業者ハ帽子ノ移出ヲ爲スト共ニ原料ノ購入及販賣ヲモ營ムモノトス然ルニ原料ヲ購入スルニハ自己ノ出張員ヲシテ購入セシムルコト前述ノ如シ而シテ是等ノ出張員ハ現今二十名内外ニ達シ各別ニ原料ノ購入ヲ爲スヲ以テ自然價格ノ騰貴ヲ來スノミナラス後述スルカ如キ種々ノ弊アリ然ルニ組合ヲ組織シ之ニ依リ購入ヲ爲ストキハ以上ノ弊害ヲ除去スルノミナラス多量ノ原料ヲ一時ニ購入スルヲ以テ品質良好ナル原料ヲ比較的安價ニ購入スルヲ得ルモノトス尙運送上ニ付テモ運送業者ト特約シテ其ノ運賃ヲ割引セシムルコトヲ得ヘシ

三 出張員ノ改善ヲ爲スコトヲ得

帽子移出業者ハ神戸ニ出張員ヲ派出スルコト前説明ノ如シ然ルニ此ノ出張員ニ付テハ多クノ弊害アリ今其ノ主ナルモノヲ示セハ左ノ如シ

- (イ) 出張員ハ公學校卒業者ニシテ内地市場ノ事情ニ通セサル爲メ商館又ハ仲買人ニ操縦セラレ易キコト
- (ロ) 出張員ノ生活華美ニ流レ賣上代金ヲ費消シ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シテ賣上代金及原料購入代金ノ一部ヲ著服スル者アルコト
- (ハ) 移出業者ハ註文取引ヲ爲ス者少ク生産スルニ隨テ之ヲ神戸ニ送付シ販賣スルヲ以テ是等出張員ハ販賣上ノ競争ト資金回收ノ關係上製品ヲ賣急キ濫賣ヲ爲スニ至リ商館ハ之ニ乘シテ買入價格ヲ低下スルモノトス
- 又註文引受ニ付テモ各出張員ハ競フテ之ヲ得ントスルノ結果非常ナル廉價ヲ以テ引受クルヲ以テ惹イテ粗製濫造ヲ來スニ至リ本島帽ノ聲價ヲ失墜スルコト尠カラス
- (ニ) 移出業者ハ其ノ資力製帽業者ニ比シ大ナリト雖之ヲ商館ニ比スルトキハ其ノ間大ナル差違アリ故ニ之カ代表者タル出張員ニ對シ商館ハ種々ノ手段ヲ弄シテ之ヲ籠絡スルモノナリ即チ(a)前貸金ヲ爲シテ製品ノ價格其ノ他取引條件ヲ有利ナラシメ(b)製品ノ鑑定ニ當リテハ商館ノ定ムル等級ヲ

以テシ其ノ決定ハ商館ノミニ於テ爲スカ故ニ種々ノ口實ノ下ニ等級ヲ引下ケ(c)同一ノ註文ヲ數人ノ移出業者ニ爲シ受渡ノ際各移出業者ノ製品中ヨリ優良品ヲ選別シテ他ハ受領ヲ拒ミ契約ヲ破棄スル等ナリ

然ルニ産業組合ヲ設ケ之ヲシテ商館トノ交渉等一切其ノ衝ニ當ラシムルトキハ從來ノ弊害ハ一切之ヲ除却スルコトヲ得ルノミナラス進テ直接商館ト見本取引ヲ爲スヲ得ルニ至ルヘク又商館ハ却テ本島ニ出張員ヲ派シテ買入ニ從事スルコトトモナルヘシ斯ノ如クニシテ始メテ本島帽子ノ名聲ヲ維持スルト共ニ其ノ價格ヲ上騰シ大量取引ヲ行ヒ確實有利ナル産業ト爲スヲ得ヘキナリ

四 仲買人ヲ排除スルコトヲ得

本島ニ於テ生産セラレタル帽子ハ製帽業者ヨリ移出業者ニ販賣セラレ移出業者之ヲ移出スルモノナリ而シテ製帽業者ヨリ移出業者ニ販賣スルニハ直接賣込ム場合ト仲買人ヲ經ル場合トアリ仲買人ハ普通製帽業者之ヲ兼スルモノナルモ少數ノ仲買專業ノ者アリ是等ノ仲買人ハ通例資力薄弱ナルコト既ニ製帽業者ノ項ニ於テ述ヘタルカ如シ然ルニ其ノ仲買ヲ營ム所以ノモノハ可及的多數ノ製品ヲ

取扱フニ依リ利益ヲ得ントスルモノナリ
 斯ノ如ク移出業者及仲買人存在スルカ故ニ製帽業者ハ其ノ利益ノ一部ヲ減殺セ
 ラルルニ至ルヘキハ勿論ナルモ現今ノ狀況ニ在リテハ移出業者ハ排除スルヲ得
 ス仲買人ト雖全然廢止スルヲ得サルナリ即チ移出業者ナキ地方ニ在リテハ勢ヒ
 仲買人ノ手ヲ經ルヲ要スルコトアルモノトス然ルニ此ノ組合ヲ設立スルトキハ
 製帽業者ハ組合ニ委託販賣ヲ爲シ其ノ間何等ノ仲介者ヲ要セサルカ故ニ移出業
 者及仲買人ノ活動ノ餘地ナキニ至ルヘキヲ以テ是等ヲ排除シ有利ノ取引ヲ爲ス
 コトヲ得ルモノトス

第二節 産業組合設立ノ要點

今産業組合設立ニ關スル要點ヲ摘出スレハ左ノ如シ

- 一 生産地ニ於ケル成ルヘク多數ノ製帽業者ヲ網羅シテ組合員トナスコト
- 二 資金ハ製帽業者ノ原料代及工賃支拂ニ要スル程度ヲ以テ定ムルコト
- 三 組合員ノ貯金ヲ獎勵シ之ヲ貸出資金ニ充當スルコト
- 四 可成零碎ナル資金ノ融通ヲ爲スコト

五 理事監事評定員等ハ有力ナル製帽業者ヲ擧ケ名譽職トスルコト

六 組合員ノ信用不十分ナル者ニ在リテハ個人保證等ノ方法ニ依リ資金ノ融通
 ヲ受クルコト

七 組合員ノ使用スル原料ヲ低廉ニ購入配付スルト共ニ組合員ノ金融狀況ヲ察
 シ其ノ支拂時期ヲ適度ニ繰延ハスコト

八 組合自ラ註文ヲ受ケ之ヲ組合員ニ分配シテ製造セシムルコト

九 組合員他ノ機關ヲ通シテ原料ノ購買及帽子ノ販賣ヲ爲スヲ得サルコト

十 組合員ハ神戸商館ト直接取引又ハ本島直輸出ノ方法ヲ講スルコト

第三節 大甲及通霄帽蓆購買販賣組合ノ狀況

前述ノ如ク産業組合ノ設立ハ本島製帽業ニ關シ必要ナルモノナルニ拘ラス組合
 ノ設立セラレタルモノ僅ニ大甲及通霄ノ二箇所ニ止マルカ如キハ誠ニ遺憾トス
 ル所ナリ而モ大甲ノ如キハ經營上蹉跌ヲ來シ却テ休止ノ狀態ニアルハ吾人ノ最
 遺憾ニ堪ヘサル處ナリ今是等二組合ノ狀況ヲ説キ新組合設立ノ參考ニ資セムト
 ス

通霄帽簾購買販賣組合ハ新竹廳通霄街ニ在リ同廳通霄支廳管内ヲ以テ其ノ區域ト爲スモノナルモ僅ニ大正八年三月ノ設立ニ係ルモノナルヲ以テ組合員七十六人ヲ有シ其ノ經營ハ今後ニ於テ見ルヘキモノトス

之ニ反シ大甲帽簾購買販賣組合ハ大正三年八月ノ設立ニシテ已ニ五年ノ星霜ヲ閱シ相當ノ成績ヲ舉クヘキ筈ナルニ大正六年二月以來營業休止ノ状態ニ在リ然レトモ是レ其ノ産業組合ノ制度良好ナラサルカ爲ニアラス今其ノ重要ナル原因ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 他ノ同業者ノ競争激甚ナリシコト
- 即チ同業組合ニ於テハ組合員ノ委託ヲ受ケ帽子ノ販賣ヲ爲スニ當リ製品ノ改良ヲ圖リ優等帽ノ生産ヲ奨励シタルニ他ノ同業者ノ競争賣崩ヲ見ルニ至リ豫期ノ利益ヲ舉クルヲ得サリシコト
- 二 組合員ニ節制ナク製品ヲ他ノ同業者ニ販賣スル者ヲ生スルニ至リシコト
- 即チ組合ハ内地商館ト契約シテ注文ヲ受ケ之ヲ各組合員ニ分配製造セシメタルニ組合員中他ノ同業者ニ製品ヲ販賣シタルヲ以テ組合ハ契約高ノ製品ヲ得ルヲ

得ス從テ商館ヨリ契約不履行ノ損害賠償ヲ請求セラレルノ已ムヲ得サルニ至リ是レ極メテ重大ナル原因ナリ

三 組合ノ代金決算時期延引シタルコト

前述組合員カ組合規約ニ反シテ他ノ同業者ニ製品ヲ販賣スルニ至リタルカ故ニ組合ハ自然代金支拂時期ヲ延引スルノ已ムナキニ至リ又代金ノ決済ヲ延引スレハ組合員ハ之ニ帽子ヲ販賣セサルニ至リタルヲ以テ旁組合ハ一層ノ難境ニ陥リタリ

斯ノ如ク本島ニ於ケル購買販賣組合ノ嚆矢タル大甲帽簾購買販賣組合ニ於テ既ニ失敗ヲ生スルニ至レルハ其ノ經營法ヲ過リタルニ因ル即チ組合員ノ不節制ナリシト組合規約ノ勵行ヲ爲ササリシトニ因ルモノニシテ之ヲ以テ組合其ノモノノ效用ヲ疑フヘキニアラス故ニ今後組合設立ノ場合ニ於テハ組合員ノ團結ヲ強固ニシ組合規約ヲ勵行スルト並官憲ニ於テモ充分ナル指導監督ヲ爲スコト組合ノ發展ノ爲必要ナル事項ニ屬ス

第五章 同業組合ノ活動及其ノ聯合會ノ設立

第一節 同業組合ノ現況

現今本島帽子ノ生産及販賣ニ關シテハ諸種ノ弊害ヲ有スルコト既ニ各項目下ニ述ヘタルカ如シ然ルニ之カ矯正ヲ爲シ進テ發達セシメンカ爲ニハ産業組合ノ設立ヲ爲スト共ニ同業組合ノ活動ニ俟タサルヘカラス然レトモ現在ニ於テ同業組合ノ設立セラレタルモノ新竹及臺中ノ二廳下ニシテ是等二廳以外ノ地方ニ於テハ同業組合未タ設立セラレス而シテ是等同業組合未タ設立セラレサル地方ハ製帽業盛ナラサルノ地ナリト雖臺南廳ノ如キハ大正七年ニ於テ十萬九千餘箇ノ帽子産額ヲ有スルヲ以テ將來同業組合ヲ設立スルノ要アルヘシ

帽子ノ主産地タル新竹及臺中二廳下ニ於テハ帽蓆同業組合設立セラレタルコト前述ノ如シ即チ新竹廳下ニハ新竹廳帽蓆同業組合臺中廳下ニハ中部、牛罵頭及大甲ノ三帽蓆同業組合アリ組合員ハ帽蓆製造者、帽蓆原料漂白者、帽蓆仲買者及帽蓆原料販賣者ヲ網羅セリ

今大正七年十二月ニ於ケル同業組合ノ狀況ヲ見ルニ左ノ如シ

名 稱	設立年月日	事務所位置	組 合 ノ 地 區	組合員
新竹廳帽蓆同業組合	大正五年二月十七日	新竹廳苗栗二堡通霄街	新竹廳下一圓	三〇六
中部帽蓆同業組合	同 六年二月二日	臺中廳線東堡彰化街	臺中廳直轄及彰化鹿港員林北斗二林葫蘆墩東勢角ノ各支廳下	一六六
牛罵頭帽蓆同業組合	同 五年八月七日	臺中廳大肚上堡牛罵頭街	臺中廳沙轆支廳一圓	一五一
大甲帽蓆同業組合	同 四年二月五日	臺中廳苗栗三堡大甲街	臺中廳大甲支廳一圓	一三三

更ニ各組合ノ資金狀況ヲ示セハ左ノ如シ(大正七年度收支決算報告ニ依ル)

一 新竹廳帽蓆同業組合收支決算

甲 收入ノ部

科 目	項 目	金 額	摘 要
一 組合費	一 組合費	八、九四〇	
二 信認金	一 信認金	一三〇	
		一三〇	
		一三〇	

乙、支出ノ部

科目	項目	金額	摘要
一 事務費	一 役員報酬	二、〇三一	副組長一人三〇〇圓評議員一人三六〇圓
	二 給料手当	六六〇	雇二人二八圓臨時雇一人一〇圓備二人二六六圓神戶通信囑託一人一八圓小使一人二七圓各員臨時手当一三五圓副組長一人一〇圓評議員一人七五圓雇一人二〇圓備一人六圓
	三 旅費	一一二	二〇〇、〇〇〇枚買入
	四 證券用紙買入代金	七一	
二 雜給雜費	五 借家料	三六〇	
	六 其他	五一	
	一 慰勞金	九八七	組長一人九〇圓副組長一人三〇圓評議員七人二一五圓雇二人二二圓備二人三〇圓小使一人一三圓
	二 會費	五〇〇	
三 事業費	三 雜費	一九九	
	四 交際費	二〇〇	
	職工獎勵費	一七五	新ニ帽型ヲ調製シ組合ノ検査ヲ受ケタルモノ一、七五二箇ニシテ一箇ニ付一〇錢ヲ補助ス
	合計	一七五	
合計	三、一九四		

三 牛馬頭帽蓆同業組合收支決算

甲 收入ノ部

科目	項目	金額	摘要
一 證券收入	一 證券收入	一一、二〇八	
	二 預金利息	一一、二〇八	
	三 雜收入	一六三	
	四 前年度繰越金	一六三	
二 預金利息	一 預金利息	一六三	
	二 雜收入	一六三	
三 雜收入	一 雜收入	七三六	
	二 前年度繰越金	七三六	
四 前年度繰越金	一 前年度繰越金	二、〇八三	
	二 前年度繰越金	二、〇八三	
合計	合計	一四、一九二	

乙 支出ノ部

科目	項目	金額	摘要
一 事務費	一 給料手当	三、二八〇	
	二 旅費	二、〇一四	
	三 通信運搬費	二九〇	
	四 證券用紙買入代金	七二九	
合計	合計	一一二	

合 計	八 翌年度繰越金	七 事務所建設費	六 事業費	五 雜費	四 聯合會費	三 交際費	二 會議費	一 借家料
一四、一九二	八、五六二	一、九〇八	三、三五	一、三四	二、二八	一、七四	六、八	六〇
	八、五六二	一、九〇八	三、三五	一、三四	二、二八	一、七四	六、八	六〇
	八、五六二	一、九〇八	三、三五	一、三四	二、二八	一、七四	六、八	六〇

四 中部帽蓆同業組合收支決算

甲 收入ノ部

科 目	項 目	金 額	摘 要
一 證票收入	一 證 票 收 入	六、一八二	
二 雜 收 入	一 雜 收 入	六、一八二	
三 帽子賣上代金	一 帽 子 賣 上 代 金	四七	預金利子四三圓其ノ他四圓
合 計		七、〇〇三	帽蓆品評會殘品紙帽一、〇九八箇林投帽八二五箇賣上代金

乙 支出ノ部

一 事務費	二 給料手当	三 旅費	四 備品費	五 證票用紙買入代金	六 借家料	七 消耗品	八 其他
一 給料手当	一、七四九	三、四〇	三〇九	二一八	一六一	二七四	二四九
二 役員報酬	三、四三三	一、七四九	三〇九	二一八	一六一	二七四	二四九
三 旅費	一、七四九	三、四三三	三〇九	二一八	一六一	二七四	二四九
四 備品費	三、四三三	一、七四九	三〇九	二一八	一六一	二七四	二四九
五 證票用紙買入代金	一、七四九	三、四三三	三〇九	二一八	一六一	二七四	二四九
六 借家料	三、四三三	一、七四九	三〇九	二一八	一六一	二七四	二四九
七 消耗品	一、七四九	三、四三三	三〇九	二一八	一六一	二七四	二四九
八 其他	三、四三三	一、七四九	三〇九	二一八	一六一	二七四	二四九

書記五人九四〇圓巡視員三人五六〇圓小使一人一二〇圓
 年末賞與金其ノ他一二九圓
 組長一人一六〇圓副組長一人三〇圓評議員六人九〇圓代
 議員十二人六〇圓

二 雜費	一 雜費	一六四	
三 會議費	一 會議費	一六四	
四 聯合會費	一 聯合會費	三三五	
五 交際費	一 交際費	二八	
六 事業費	一 職工獎勵費	二八六五	二林職工養成所技術指導員宿舍料旅費其ノ他
	二 職工獎勵費	三六二	
	三 帽蓆原料ノ漂白製造改良統一ヲ期スル方法ヲ講スルコト	二、五〇二	賞品三四二圓宴會費三二五圓原料代金一、二二九圓其ノ他
七 積立金	一 積立金	五七	
合計		七、〇〇三	

備考 中部帽蓆同業組合ハ本表以外大正七年度末積立金二、七二一圓ヲ有ス

今同業組合ノ施設事項ニ付新竹廳同業組合ノ定款ヲ摘録スレハ左ノ如シ

一、營業ハ誠實ヲ旨トシ總テノ弊害ヲ除去シ優良ノ物品ヲ製造販賣シテ需要者ノ信認ヲ得ル方法ヲ講スルコト

- 二、營業上ノ利害得失ヲ講究シ濫リニ競賣ヲ爲シ又ハ販賣價格ニ變動ヲ生セシムルカ如キ行爲ヲ豫防スル方法ヲ講スルコト
- 三、帽蓆原料ノ漂白製造改良統一ヲ期スル方法ヲ講スルコト
- 四、職工徒弟ノ爭奪ヲ防止スル方法ヲ講スルコト
- 五、検査所ヲ設ケ製品ノ検査ヲ爲スコト
- 六、販賣價格ノ統一ヲ圖ルコト
- 七、販路擴張並製品改良ノ爲内外市場ノ商況ヲ調査シ之ヲ組合員ニ通知スルコト
- 八、特許、意匠、商標、實用新案等ノ登録其ノ他組合ニ重要ナル調査ヲ爲スコト
- 九、内外博覽會共進會等へ出品ヲ爲スコト
- 十、模範工場ヲ設ケ組合員ニ製品ノ模範ヲ示スコト
- 十一、帽蓆ノ改良發達ニ關シ新發明ノ技術者及功績顯著ナル者ヲ表彰シ又ハ保護ヲ與フルコト
- 十二、職工賃金支拂ニ關シ不當ノ競争又ハ支拂延滞ヲ防止スル方法ヲ講スルコト
- 十三、職工ノ獎勵保護ニ關スル方法ヲ講スルコト

十四組合員ノ相互間ノ紛議ヲ仲裁スルコト

以上新竹應帽蓆同業組合ノ施設事項ハ他ノ帽蓆同業組合ニ在リテモ略之ト同一ナリトス而シテ是等同業組合ノ實績ニ付大正六年中ニ於ケル中部及牛馬頭同業組合ノ事業概況ヲ示セハ左ノ如シ

一 中部帽蓆同業組合

イ 職工養成 同組合ハ二林地方ニ職工養成所ヲ設ケ臺中廳ノ補助ヲ得テ製帽教師一名ヲ聘シ該地方ニ於ケル女工ニ技術ヲ傳習セシメタリ而シテ其ノ結果良好ナリシヲ以テ漸次村內各地ニ及ホシ技術熟達シタル者九十人以上ニ達セリ

ロ 帽型改良 從來使用シ來レル帽型ハ寸法一様ナラサル爲製品不揃トナルヲ以テ適當ト認メタル寸法ニ依リ一定ノ帽型ヲ作製シ職工ニ配付シタリ又移出業者ニハ寸法不足品質不良ノ粗惡品ヲ一切取扱ハサルコトヲ誓約セシメタリ

ハ 運送方法ノ改良 從來帽子ヲ小包郵便ニ依リ移輸出シタルモ普通運送ニ比

シ費用ヲ増加スルヲ以テズツク製袋百箇ヲ作製シテ組合員ニ貸付シ以テ普通運送ニ依ラシメ又島内鐵道運賃ノ割引ヲ總督府ニ請願シ三割引ノ特典ヲ受クルニ至レリ

二 牛馬頭帽蓆同業組合

イ 帽型改良 帽型四千九百六十七箇ヲ新調シテ從來職工ノ所持セルモノト交換シ帽型ノ統一ヲ計リタリ

ロ 編製法ノ改善 帽子編出大ナリシヲ以テ之ヲ改メ耳組ヲ三行編ニ改メタリハ運送方法ノ改良 從來小包郵便ニテ輸送セシヲ大正六年十二月二十三日ヨリ普通運送ニ託セシメ爾來輸送セシ袋數ハ三百三十二箇ニ達シ之ニ依リ生産費ヲ減セシコト一打ニ付三錢乃至四錢ナリ只小包郵便ニ比シ運送ニ日數ヲ多ク要スルヲ遺憾トス

右ノ如ク改良獎勵ニ努メタリト雖之ヲ前掲施設事項ト對比スルトキハ未ダ満足ナル施設ト目スヘカラサルモノト云フヘシ

第二節 同業組合ノ活動

此ノ如ク同業組合ニ依リテハ多少ノ成績ヲ舉ケタルモノアリト雖同業組合ノ爲スヘキ事項タル販賣競争防止原料ノ統一職工爭奪防止製品検査内外市場ノ商況調査等ハ未タ實施セラレス蓋シ本島ノ同業組合ハ當局ノ指導ニ依リ設立セラレタルモノニシテ組合員ハ未タ組合ノ本質ヲ解セス各自競フテ唯目前ノ利益ヲ得ルニ焦慮シ却テ組合存在スルカ爲ニ費用ヲ増加シ且自由ヲ束縛スルモノト信スルノ狀況ナルヲ以テ同業組合ヲシテ十分活動セシムルニハ先ツ其ノ組合ノ性質ヲ十分ニ了解セシメ之ヲ善導スルコトヲ要ス而シテ漸次組合員ノ智識發達シ組合ノ利益ヲ認ムルニ於テハ其ノ改良發達ハ期シテ待ツヘキモノアリ而シテ同業組合ヲ活動セシムルニハ組合規則ヲ勵行スルコト最必要ナリ其ノ他營業上ノ弊害防止ニ關シテハ

- (イ) 組合證ヲ貼付セスシテ帽子ヲ合組地域外ニ搬出セサルコト
- (ロ) 特ニ販賣價格ヲ指定シタルトキハ組合ノ承認ヲ經スシテ猥リニ之ヲ變更スルヲ得サルコト
- (ハ) 組合員ハ如何ナル理由ヲ以テスルモ職工ヨリ帽子ヲ買取ルヲ得サルコト

(ニ) 組合員ハ職工ヲシテ自己ノ支給シタル以外ノ原料ヲ以テ帽子ヲ編製セシメ又ハ編製シタル帽子ヲ引取ルヘカラサルコト等ヲ勵行スルコトヲ要ス

第三節 同業組合聯合會ノ設立

同業組合ハ此ノ如ク必要ナルモノナリト雖其ノ個々ノ活動ノミニテハ未ダ十分ナラサルモノアリ從テ同業組合聯合會ヲ設立シ相互ノ氣脈ヲ通シ協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ増進スルヲ最必要トス

抑モ同業組合聯合會ハ大正六年十二月一度其ノ議アリタレトモ未タ其ノ設立ヲ見サルハ本島ノ狀況ニ照シ極メテ遺憾トス蓋シ本島現況ノ下ニ於テハ各組合毎ニ其ノ規約ノ勵行ニ寬嚴アリ又其ノ經費ノ多少ニヨリ施設ニ差異アルヲ免カレヌ之ヲ内地市場ニ於ケル取引狀態ニ見ルモ本島産帽子ハ一律ニ取扱ハレ何々組合製品トシテ特ニ區分シ評價セラレサルカ故ニ單ニ一組合ニ於テ製品ノ向上ニ努ムルモ内地市場ニ於テハ他ノ劣等帽ノ爲ニ累ヲ蒙リ玉石混淆遂ニ相率ヒテ粗製濫造ノ弊ニ陥ルニ至レリ將來本島帽子業ノ改良發達ヲ圖リ從テ同業組合聯合

- 會ヲ設立スルハ極メテ必要ノ事項ナリトス
 今同業組合ニテ爲スヘキ事業ノ要項ヲ示セハ左ノ如シ
- 一 所屬組合員ノ使用スル帽蓆原料ヲ一定ナラシメ粗悪品ヲ除去シ優良ナル物品ノ製造販賣方法ヲ講スルコト
 - 二 所屬組合員營業上ノ利害得失ヲ講究シ漫リニ競賣ヲ爲シ又ハ賣買價格ニ變動ヲ生セシムルカ如キ行爲ヲ豫防スル方法ヲ講スルコト
 - 三 販路ノ擴張及製品改良ノ爲内外市場ノ商況ヲ調査シ所屬組合ニ通知スルコト
 - 四 原料及製品ノ検査ヲ爲スコト
 - 五 營業上所屬組合ニ生シタル紛議ヲ仲裁スルコト
 - 六 職工賃ヲ一定スル方法ヲ講スルコト

附 録

第一 製帽業者人名表

(大正七年十二月調査)

新竹廳

創業年月	一箇月取扱高	營業種類	住	所	氏	名
大正 六、五	三、〇〇〇	製帽業兼仲買業	新竹廳	北門街一九四	蔡	定
六、六	五〇〇	同	同	一四三	王	富
五、一〇	五〇〇	同	同	二八五	蔡	煉
五、二〇	五〇〇	同	同	一二六	許	印
六、五	五〇〇	同	同	一八二	吳	炳
五、九	一、〇〇〇	同	同	東門街一五三	倪	竿
五、九	一、〇〇〇	同	同	南門街三四八	蔡	食
五、九	二、〇〇〇	同	同	三九	林	吉
六、二	八〇〇	同	同	東門街二三五	王	清
六、一〇	五〇〇	製帽業	同	三三三	邱	榮
六、九	五〇〇	同	同	西門外街一九	楊	清
六、九	八〇〇	同	同	一八	劉	萬
六、二	一、〇〇〇	同	同	北門外街二七三	紀	旺

四、七	四、六	四、六	三、九	五、九	三、二	四、八	四、〇	四、七	五、四	六、二	五、八	元、一	三、八	四、七	五、九	五、九	四、一	元、七	四、五	大正
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

四、五〇	六、三〇	一、五〇	七、〇〇	一、五〇	二、五〇	三、五〇	三、八〇	五、六〇	三、〇〇	三、二〇	五、〇〇	三、〇〇	五、〇〇	三、五〇	二、三〇	四、五〇	六、〇〇	六、五〇	二、五〇	一、二〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大山脚庄六五八	苦苓脚庄二三四	新港庄四三	水尾仔庄九七〇	五七五	五七八	外埔庄六七二	二〇四	八三	四五五	三九一	四〇六	四二八	三二〇	一九七	三〇八	三三八	二五一	四五二	七二	

黃	陳	張	陳	許	呂	陳	林	林	杜	林	陳	謝	林	陳	陳	陳	駱	陳	謝	吳
喬		嬌	乞	耀	天	知	昌	添	九	再	朝	進	錦							
遷	玉	甜	炳	福	坪	食	性	南	富	玉	美	枝	批	生	明	枝	財	章	塗	六

五

明治	大正	明治	大正	明治	元	七	六	六	六	六	六	六	六	五	六	六	大正
四五、	四〇、	四二、	三、	四三、	四、	七、	六、	六、	六、	六、	六、	六、	六、	五、	六、	六、	

一、二〇〇	九、〇〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	三、二〇〇	三、五〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、一〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇
製	製	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	製
帽	帽	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八九	二五一	三二八	三六八	一四二	三七八	四二七	九〇	苗架一堡後壠庄一九七	營盤邊庄土名寮	三〇二	中港街三一五	海口庄土港仔六八	中港街	蘆竹浦庄三一〇	一七七	中港街	鹽館前庄四〇三	六四六	一三	竹南一堡椅頂庄一七

謝	翁	黃	沈	杜	王	黃	杜	陳	陳	許	陳	林	陳	李	方	黃	方	許	葉	林
元	慶	紅	文	阿	懸	寶	永	乞	潛	德	石	萬								
進	龍	吉	呆	朝	毛	端	月	岩	寶	九	盛	順	發	食	却	淵	勝	興	興	樹

四

臺中廳

大正 七、九	四五〇	製帽業	苗栗二堡山脚庄一二七	林	八
明治 三六、六	一二〇	同	石頭坑庄一二	葉	金
計					一四 一八乾奇

創業年月	一箇月取扱高	營業種類	住	所	氏	名
大正 七、八	四八〇	製帽業	臺中廳苗栗三堡大甲街四四七	頂店庄 四九	李	明
大正 七、五	一、八〇〇	同	同	社尾庄 一六四	張	丁
大正 五、一〇	七二〇	同	同	南埔庄 三五〇	陳	九
大正 五、一〇	七二〇	同	同	中庄 三二〇	蕭	允
明治 五、一〇	九六〇	同	同	南庄 一二	李	輝
明治 四、四	二、四〇〇	同	同	下脚踏庄 八七	李	榮
明治 四、七	七二〇	同	同	海墘厝庄 五六	楊	榮
明治 四、九	一一〇	同	同		黃	梅
明治 四、六	二四〇	同	同			
大正 四、五	七二〇	同	同			
大正 三、二	六〇〇	同	同			
大正 四、七	三六〇	同	同			

創業年月	一箇月取扱高	營業種類	住	所	氏	名
大正 五、二二	四二〇	同	同	下大安庄 一五五	張	萬
大正 三、二二	八四〇	同	同	大甲街 六四	陳	啓
大正 五、一〇	二、一六〇	同	同	庄尾庄 二二	吳	炳
大正 四、三	一一〇〇	同	同	山脚庄 一八	吳	清
大正 五、五	三六〇	同	同	中和庄 九二	黃	再
大正 四、六	七二〇	同	同	墩仔脚庄 三〇八	張	琴
大正 五、一〇	九六〇	同	同	六塊厝庄 一八六	許	潭
大正 五、一〇	八四〇	同	同	下大安庄 一六五	黃	真
大正 五、一〇	六〇〇	同	同	田心仔庄	吳	成
大正 五、二二	三六〇	同	同	東勢尾庄	易	業
大正 五、二二	二四〇	同	同	西勢庄 一二二	林	標
大正 四、一	四八〇	同	同	日南庄 一六二	陳	芬
大正 四、八	三六〇	製帽業兼仲買業	同	大肚上墾牛罵頭街	林	印
大正 四、五	三〇〇	同	同		蔡	淵
大正 四、五	三〇〇	同	同		信	淵

元、	三、	四、	二、	二、	三、	二、	五、	四、	五、	六、	大正	明治	大正	明治	元、
五、	〇、	三、	四、	四、	〇、	一、	八、	六、	六、	三、	四、	四、	四、	四、	四、
											七、	二、	七、	八、	六、

一、	二、	一、	一、	二、	一、	一、	二、	二、	一、	二、	二、	一、	一、	一、	一、
〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、
〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同 同

大庄

南簡庄

大肚中堡沙鏡庄

謝黃蔡蔡蔡吳王何王陳陳謝王鄭鄭洪林卓卓鄭鄭

乾老朝清 水 江清元 成添 神

杜坤速法俊前河木木波竹蛋芳鴻支傳登樂到秋塗

大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正
元、	四、	四、	七、	五、	四、	六、	四、	五、	四、	三、
八、	三、	四、	二、	四、	二、	八、	二、	二、	八、	三、

一、	一、	二、	一、	一、	一、	二、	一、	二、	一、	一、
三、	六、	五、	二、	三、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、
〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、	〇、
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同 同

高美庄

大椰榔庄

秀水庄

大肚上堡三塊厝庄
四塊厝庄

蔡曾林楊蔡蔡蔡蔡蔡蔡蔡周顏蔡林李林洪楊許許吳

欽 清金樹石 治

王旺且錢文風 炬枝城墩寶地林號石印斗植宙愛圳

明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正
四二	四	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二
九	八	八	五	三	二	七	三	九	六	七	九	六	五	四	三	二	一	九	六	五	四

三、〇〇〇	一、四四〇	三、〇〇〇	二、四〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、四四〇	九六〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

製帽業兼仲買業

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
溪底庄四五〇	十五張犁庄二七〇	二五	八七	八七	二九	一〇一	泉洲厝庄	和美練庄四四〇	六二四	九五〇	七五四	一、〇二二	一、〇四二	線西堡月眉庄七五四	南門口三八六	北門三八〇	南門三一七	北門四一一	北門四一一	北門四一一	北門四一一

柯許周洪洪周周周黃鄭蔡洪陳蔡洪王張張林陳李
克 水 大考 番金 孔 貫

土明蕭邱溪英鍊接頭七元蛋慈枝敦峻槐傳番明四

明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正
四五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

一、五〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

製帽業

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
牛罵頭街	鹿寮庄	大肚上堡公館庄	武東堡諸雅庄	草埔庄	蘆荳埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄	草埔庄

楊蔡蔡李陳林黃林林童李紀楊陳陳陳蔡王王黃陳
進 慧清金田 三 金再正 古鴻靈 閩

某文吉誠弛安生赤盤忠春九約店元福樹川川盛泉

計	六、四	五、六	七、九	三、七	三、二	七、二	三、七	五、三	三、七	七、四	七、七	六、五	六、七	元、一	四、九	四、七	四、一	六、六	四、八
	一、〇〇〇	二、〇〇〇	八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、二〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、四四〇	一、二〇〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	製	同	同	同	同	同	同	同	同	製
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	業	同	同	同	同	同	同	同	同	業
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	馬芝堡鹿港街土名新興一六八	線東堡彰化街北門三〇八	線西堡塗厝厝庄六一七	燕窩上堡白砂坑庄五二九	同 下見口庄四二五	同 新港庄三七八	同 番雅港庄二二五	同 四六二	線西堡溪底庄四五〇	同
	紀	蔡	黃	施	施	黃	陳	施	蔡	吳	吳	陳	陳	黃	錫	楊	謝	柯	柯
	有			進	邁			裕		土	國		再						
一七九人	慶	園	益	里	來	嘴	發	明	元	梓	茂	泰	旺	法	團	端	參	本	租

臺南廳

計	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一	七、一
	一、〇〇〇	二五〇	八、〇〇〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	同	同	製	同	同	製	同	同	同	製	同	同	同	製	同	同	製	同	製
	同	同	業	同	同	業	同	同	同	業	同	同	同	業	同	同	業	同	業
	同	同	臺南廳臺南市	同	同	臺南廳臺南市	同	同	同	馬芝堡鹿港街土名新興一六八	線東堡彰化街北門三〇八	線西堡塗厝厝庄六一七	燕窩上堡白砂坑庄五二九	同 下見口庄四二五	同 新港庄三七八	同 番雅港庄二二五	同 四六二	線西堡溪底庄四五〇	同
	邱	陳	楊	同	同	楊	同	同	同	吳	吳	陳	陳	黃	錫	楊	謝	柯	柯
	三人	雪		同	同		同	同	同	土	國		再						
	三人	華	織	同	同	織	同	同	同	梓	茂	泰	旺	法	團	端	參	本	租

備考 本表ハ臺灣總督府殖産局商工課ノ調査セルモノナリ

赤南同林同同同東	堡里名	街庄名	現在從事シツ ツアル職工數	編製 職工止中 ノ職工數	傳習 職工中 ノ數	耳組 職工數	計
赤炭滸	西滸	媽宮街外二郷	三六	一八八			二二四
南登滸		文滸外二郷		二五			二五
同登滸		宅脚嶼外二郷		五七			五七
林投滸		西衛郷		二五			二五
同登滸		隘門外五郷		五〇			五〇
同登滸		真文港外二郷		五〇			五〇
同登滸		湖西外六郷		二〇			二〇
赤炭外一郷		大赤炭外一郷	三八	二九			六七

澎湖廳

楠梓仙溪西里	同同學	學甲堡	計
二重溪庄	蚵寮庄	北門嶼庄	三發海庄
二七九八	一八〇	五九五	一、八三〇
			六四
			一、八三〇

臺南廳

効忠里	堡里名	街庄名	現在從事シツ ツアル職工數	編製 職工止中 ノ數	傳習 職工中 ノ數	耳組 職工數	計
同同同二同同棟臺棟同棟同同馬	同同同林下堡	番港庄	三二、四七七	二、七〇一	三、七七六	一、八五二	四〇、八〇六
同同同	同同同	西港庄	一〇〇		一〇〇		二〇〇
同同同	同同同	王功庄	八〇		二〇〇		二〇〇
二同同	二同同	林頭街	一五〇		八〇〇		三〇〇
同同同	同同同	東大墩街	一〇〇		一〇〇		二〇〇
棟東下堡	棟東下堡	西大墩街	一五〇		一〇〇		二五〇
臺東中堡	臺東中堡	臺雅中庄	八五		一〇〇		一七〇
棟東上堡	棟東上堡	圳塔庄	一〇〇		一〇〇		二〇〇
同同同	同同同	神崗庄	一八〇		一〇〇		二八〇
同同同	同同同	掃塔庄	二五〇		三〇〇		三〇〇
同同同	同同同	海埔厝庄	三二八	七五	八〇〇		四八三
馬芝堡	馬芝堡	洪厝寮庄	三九八	五三	三七		四八六
		計	一六八				一、二七

押捺シ且帽子検査所ノ帽子検査済證明書ヲ添へ郵便局ニ託送スルモノトス然ルニ狡猾ナル移輸出業者ハ帽子検査ヲ受ケスシテ恰モ普通品同様ノ包装ヲ爲シ帽子產地以外ノ郵便局ニ託送スルヲ以テ之カ取締ノ方法ヲ講シ是等密移輸出品ノ絶滅ヲ圖ラサルヘカラス

(四) 補助金ノ下附

本島ノ製帽業ハ内地ノ同業ト競争セサルヲ以テ其ノ生産費ヲ輕減スルノ要アリ又本島帽子ノ商況調査及販路擴張ニ關シテモ多額ノ費用ヲ要スルカ故ニ之ヲ全部當業者ノ負擔ニ任セシムルトキハ必要ナル事項モ實施ヲ見ルヲ得ス假令實施セラレタリトスルモ其ノ機ヲ逸スルニ至ルヘキヲ以テ之カ爲補助金ノ下附ヲ爲サレシコトヲ希望スルモノナリ殊ニ本島製帽業ハ徒手遊食ノ弊ヲ有スル本島婦女子ノ手工ニ依ルヲ以テ經濟上大ナル利益ヲ齎ラスモノナレハ之カ保護獎勵ハ必要ナリト云フヘシ

(五) 検査手数料ノ輕減

現今本島帽子検査手数料ハ内地ニ比シ高キノ感アリ即チ大甲帽検査手数料一錢

林投帽及紙帽検査手数料二錢ナルヲ以テ本業保護獎勵ノ爲財政ノ許ス限リ輕減アラシコトヲ望ム

(六) 官憲ノ指導獎勵

官憲ニ於テハ常ニ當業者ノ研究ニ一歩ヲ進メ指導獎勵ヲ爲サレ度殊ニ當業者ノ企及シ難キ商況調査等ヲ爲シ有益ナル資料ヲ與ヘラレンコトヲ希望スルモノナリ

二 對支販路擴張ノ必要

紙帽ハ内地ヲ經テ亞米利加ヲ首トシ濠洲加奈太英國香港支那比律賓諸島蘭領印度等ニ輸出セラルルコト前述ノ如シ然ルニ是等仕向地中香港新嘉坡方面ヘ仕向クルモノハ完製品ナレトモ歐米ニ仕向クルモノハ帽體ノ儘ニテ未タ仕上ケヲ爲ササルモノナルコトハ注意スヘキ點ナリトス而シテ亞米利加ニ於テハ流行稍變シ上等品ヨリハ寧ロ下等品歡迎セラルルノ傾向ナルヲ以テ當業者ハ能ク其ノ傾向ヲ察知シ需要ニ副ハンコトヲ期セサルヘカラス

帽子需要地中支那ニ於ケル狀況ニ付前陳蔡年亨氏大正七年六月總督府ヨリ派遣

セラレ其ノ報告アリ其ノ概要ヲ摘録セン
支那ハ多數ノ人口ヲ有シ自國ニ於テ帽子ノ生産ナク又船腹不足ノ爲外國品ノ輸入困難ナルヲ以テ本邦製帽子ノ輸入多キカ如シト雖事實ハ之ニ反シ本邦製夏帽子ノ輸入ハ上海一箇年一萬四千打香港約一萬打其ノ他福州廈門廣東等ヲ加フルモノ一箇年約三萬打内外ニ過キス蓋シ支那ハ現在民度低クシテ帽子ヲ著用セサル慣習アルニ依ルモノトス

南支那ニ於テ現ニ需要セラルル帽子ハ麥稈帽子最多ク之ニ亞クハ安物ノ經木製帽子ヘルメット帽並模造バナマ帽ノ順序ナリトス唯香港ノミハ萬事西洋風ニシテヘルメット帽ノ需要比較的多キカ如シ而シテ模造バナマ帽ハ悉ク本邦製紙帽ナリ輸入先ハ主ニ大阪ニシテ臺灣ヨリノ輸入少シ斯ノ如ク臺灣ヨリノ輸入少キニ拘ラス各地共概シテ臺灣草帽ト稱シ販賣シ居ル狀況ナリ以テ如何ニ臺灣帽子カ同地ニ歡迎セラルルヤヲ知ルニ足ルヘシ從テ假令現在ニ於テハ需要少キモ支那ハ多數ノ人口ヲ有シ殊ニ自國ニ於テ帽子ヲ生産セサルカ故ニ將來有望ノ消費地トスヘク本島ハ直接輸出ノ方法ヲ開始スルコト必要ナリ今此ノ點ニ付要點ヲ

研究スルニ左ノ如シ

イ、南支ニ於テ本島帽直接取引

本島ト直接取引希望者アルコト勿論ナリト雖支那ノ商取引ハ現金取引ニアラスシテ悉ク著荷後六十日又ハ九十日拂ナレハ支那商人ノ信用程度ヲ知ル迄ハ直接取引ハ不可能ナラン

ロ、本島帽ノ南支直輸出方法

直輸出ノ方法ハ(一)夏帽子ノ需要期節前即チ毎年一月頃見本ヲ送付シ其ノ注文ニヨリテ送荷ス(二)製造元ヨリ期節前店員ヲ派遣シ各地ヲ旅行シテ注文ヲ取ル(三)各地ニ代理店又ハ特約店ヲ置キ注文ヲ引受ケシメ後送荷シテ支那商人ニ賣渡ス(四)毎年需要高ヲ見込ミテ現品ヲ送附シ各地ニ店員ヲ巡回セシメ現金ニテ賣渡ス等幾多ノ方法アリト雖何レモ完全ナリト云フヲ得ス故ニ更ニ進ミテ主ナル都市即チ上海香港ニ販賣店ヲ設置シ卸小賣業ヲ兼營スルト共ニ他ノ地方ヘノ販賣ヲモ營マシムルヲ可トス支那ニ於ケル小賣商人ハ暴利ヲ貪ルカ故ニ製造元タル臺灣ヨリ直輸入スルヲ得ハ自然比較的廉價ヲ以テ需要ニ應シ得ラルヘシ然レトモ若

資本ノ關係上之ヲ行フコトヲ得サルトキハ前掲第三ノ方法ニヨリ各地ニ代理店若ハ特約店ヲ設置スルヲ可トス

尤モ以上ノ方法ヲ採ルニ於テハ大阪商人ト競争スルノ覺悟ナカルヘカラス大阪商人ハ永年對支貿易ノ經驗アルト夏冬各種帽子ヲ取扱ヒ同シク夏帽子ニ於テモ麥稈、經木、ヘルメツト、紙ノ各種帽子ヲ取扱フカ故ニ取引上種々ノ利便アルニ反シ臺灣ニ於テハ新企劃ナルト取扱商品モ紙帽一種ニ過キサカカ故ニ取引上多少ノ缺陷ハ免カレサルヘク大阪商人ニ對抗上不利ノ地位ニ在リト云フヘシ

前述ノ如ク臺灣帽子商ハ凡テノ點ニ於テ大阪商人ニ比シ不利ノ地位ニ在リ殊ニ臺灣帽子商人ヲ見ルニ經歷ニ於テ資力ニ於テ到底獨力ニテ其ノ任ニ當ルヘキ者ナカルヘキヲ以テ法人團體ヲ組織セシメ臺灣產業獎勵ノ目的ヲ以テ數年間幾何カノ補助金ヲ與フルヲ得ハ支那ハ將來確ニ臺灣帽ノ一大消費地タルニ至ラン若四圍ノ事情ニヨリ第一第二ノ方法實行スルヲ得サルニ於テハ消極ノ方法ナルモ今後大阪商人ヲ利用シテ間接ニ支那ニ販路ノ開拓ヲ期シ得ラルヘシ

第四 帽子信用購買販賣組合定款案

有限責任 何々帽子信用購買販賣組合定款

第一章 總則

- 第一條 本組合ハ左ノ事業ヲ營ムヲ以テ目的トス
- 一 組合員ニ帽子ノ生産ニ必要ナル資金ヲ貸付スルコト
- 二 組合員ニ貯金ノ便宜ヲ得シメ又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者、公共團體、營利ヲ目的トセサル法人團體若ハ加入豫約者ノ貯金ヲ取扱フコト
- 三 製帽ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト
- 四 組合員ノ生産シタル帽子ノ委託販賣ヲ爲スコト
- 第二條 本組合ハ有限責任何々帽子信用購買販賣組合ト稱ス
- 第三條 本組合ノ組織ハ有限責任トス
- 第四條 本組合ノ區域ハ何處何區トス

第五條 本組合ノ事務所ハ之ヲ何廳何堡何街何番地ニ置ク但シ必要アルトキハ理事會ノ決議ニ依リ便宜ノ地ニ出張所ヲ設クルコトヲ得

第六條 組合員ハ本組合ノ區域内ニ住居シ且獨立シテ帽子ノ生産ニ従事スル者ニ限ル加入豫約者ノ資格亦同シ

第七條 組合員及加入豫約者ハ本組合ト同一ノ目的ヲ有スル他ノ組合ニ加入シ又ハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 本組合ノ存立期間ハ主タル事務所ニ於ケル設立登記ノ日ヨリ滿二十箇年トス

第九條 本組合ノ事業年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ルモノトス

第十條 事業ノ執行ニ關スル細則ハ理事會ニ於テ之ヲ定ム

第十一條 本組合ニ對スル組合員ノ持分ハ其ノ拂込済出資額ニ應スルモノトス但シ特別積立金ニ對シテハ其ノ年度ニ於テ組合員カ本組合ヨリ購買シタル物品及本組合ニ委託シテ販賣シタル帽子ノ價額ヲ合計シタル金額ニ應シ年度毎

ニ之ヲ算定加算ス

第十二條 組合員ハ各自記名シタル印鑑ヲ本組合ニ提出スルコトヲ要ス

第十三條 組合員住所氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ都度本組合ニ届出ツヘキモノトス

第一章 出資

第十四條 出資一口ノ金額ハ金二十圓トス

第十五條 出資第一回ノ拂込金額ハ第六十八條第二項ノ場合ヲ除クノ外一口ニ付金五圓以上トス

第十六條 第一回以後ノ出資拂込ハ配當スヘキ剩餘金ヲ以テ拂込ニ充當スル場合ノ外出資一口ニ付金二圓宛ヲ毎年五月ヨリ十月ニ至ル期間ニ於テ毎月二十五日迄ニ拂込ムヘキモノトス

第十七條 組合員其ノ出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期日後一日ニ付其ノ拂込ムヘキ金額ノ百分ノ一ニ當ル過怠金ヲ徴收ス但シ其ノ期間ハ三十日ヲ越ユルコ

トヲ得ス

第十八條 本組合ハ組合員ノ出資ニ對シ出資證券ヲ交付ス

出資證券ニハ本組合ノ印章ヲ捺シ且理事及監事之ニ記名捺印スルモノトス
出資證券ハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ス

第十九條 産業組合法第十六條ノ五第一號及第二號ノ事項ニ付爲スヘキ組合原簿ノ記載ノ變更ハ毎年十二月三十一日之ヲ取纏メ其ノ後二週間内ニ之ヲ爲スモノトス

第三章 機關

第二十條 本組合ニ理事五名監事三名信用評定委員五名ヲ置ク

理事ハ組合長專務理事各一名ヲ互選ス

組合長ハ本組合ヲ代表シ一切ノ業務ヲ總理ス但シ重要ナル事項ニ付テハ理事會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

專務理事ハ組合長ヲ輔佐シ業務ノ執行ニ任シ組合長事故アルトキハ之ヲ代理

スルモノトス

理事ハ事務ノ分擔ヲ爲スコトヲ得

監事ハ本組合業務執行ノ監査ヲ爲スモノトス信用評定委員ハ組合員中ヨリ選任シ組合員各自ノ信用ニ關スル業務ヲ行フ

第二十一條 理事ノ任期ハ三箇年監事ノ任期ハ二箇年信用評定委員ノ任期ハ一箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

組合長及專務理事ノ任期ハ理事ノ任期ニ從フ補缺選舉ニ依リ就任シタル理事
監事及信用評定委員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

理事監事及信用評定委員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス但シ總會ハ之ヲ解職スルコトヲ妨ケス

第二十二條 理事監事又ハ信用評定委員ニ缺員ヲ生シタル場合ハ次期ノ通常總會ニ於テ其ノ選舉ヲ爲スモノトス但シ前條第四項ノ場合ヲ除クノ外理事會ニ於テ必要ト認メタルトキハ臨時總會ヲ召集シ補缺選舉ヲ爲スコトヲ得

總會カ理事監事又ハ信用評定委員ノ解任又ハ解職ヲ議決シタルトキハ同時ニ

其ノ補缺選舉ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 總會ハ通常總會及臨時總會ノ二種トス

通常總會ハ毎年一回一月ニ之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 理事カ必要ト認メタルトキ
二 監事カ組合財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付不正ノ廉アルコトヲ發見シタル等ノ場合ニ於テ其ノ必要ヲ認メタルトキ

三 組合員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求シタルトキ

此ノ場合ニ於テハ理事ハ遲滞ナク總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二十四條 總會ノ招集ハ少クとも五日日前ニ書面ヲ以テ組合員ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知書ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載シ招集者之ニ記名捺印スヘキモノトス

第二十五條 總會ハ總組合員ノ三分ノ一以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

議事ハ出席シタル組合員ノ表決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

定款ノ變更、除名、解散及合併ノ決議ハ總組合員ノ半數以上出席シ總表決權ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

組合員ノ表決權ハ出資一口ニ付一箇トス但シ出資五口以上ヲ有スルモノハ五口ヲ増ス毎ニ一箇ヲ加フルモノトス

第二十六條 組合員ハ五人以上ヲ代理シテ表決權ヲ行フコトヲ得ス

組合員ノ代理ハ法定代理人ノ外本組合員タル者ニ限ル

第二十七條 總會ノ議長ハ組合長之ニ當ル但シ第二十三條第三項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ總會ヲ招集シタル監事之ニ當ル

前項但書ノ場合ニ於テ總會ヲ招集シタル監事多數アル場合ニ於テハ其ノ互選ヲ以テ議長ヲ定ム

總會ニ於テ別ニ議長ヲ選定スルノ必要ヲ認メタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス
出席組合員中ヨリ別ニ議長ヲ定ムルコトヲ得

第二十八條 通常總會ニ於テハ監事ノ意見ヲ聞キ財産目錄、貸借對照表、事業報告
書損益計算表、剩餘金處分案其ノ他ノ事項ヲ決議ス

第二十九條 理事會ハ理事ヲ以テ組織シ理事ノ過半数ヲ以テ議事ヲ決ス可否同
數ナルトキハ組合長ノ決スル處ニ依ル

第三十條 總會及理事會ニ於テハ議事録ヲ作り會議ノ顛末及出席者ノ員數ヲ記
載スルコトヲ要ス

總會ノ議事録ニハ議長及其ノ指名シタル出席者二名、理事會ノ議事録ニハ出席
理事ノ總員之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第三十一條 組合長ハ毎年一月及七月信用評定委員ヲ招集スルコトヲ要ス又必
要アリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得

信用評定委員ハ組合員ノ信用程度表ヲ作製スルモノトス

信用程度表ハ理事之ヲ保管シ役員ノ外閱覽スルコトヲ許サス

第三十二條 理事監事及信用評定委員ハ之ヲ名譽職トス但シ總會ノ決議ニ依リ
報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得

理事監事及信用評定委員ハ正當ノ理由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第三十三條 本組合ニ審査員及書記ヲ置ク其ノ任免ハ理事會ノ決議ヲ以テ組合
長之ヲ行フ

審査員ハ帽子ノ検査鑑定ヲ爲シ書記ハ庶務ニ従事スルモノトス

審査員及書記ハ有給トス但シ其ノ額ハ理事會ニ於テ之ヲ定ム

第三十四條 總會及理事會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第四章 信用

第三十五條 本組合ハ組合員カ帽子資金ノ貸付ヲ請求シタルトキハ其ノ組合員
ノ信用程度及貸付金ノ用途ヲ調査シ貸付クヘキ金額並其ノ返済期限及利率ヲ
定ムルモノトス

第三十六條 組合員カ資金ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ適當ナル連帶保證人ヲ

立テ又ハ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但シ販賣ヲ委託シタル帽子ノ價額ヲ限度ト
スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 貸付金ノ辨濟期限ハ一箇年以内トス但シ特別ノ理由アルトキハ三
箇年以内ト爲スコトヲ得

第三十八條 貸付金ノ辨濟ヲ怠リタルトキハ百圓ニ付一日金四錢ノ遲延利息ヲ
徴收ス

第三十九條 本組合ハ貸付金使用ノ實況ヲ監査シ貸付ノ目的ニ反スルモノアリ
ト認ムルトキハ組合員ニ對シ期限前ト雖辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十條 貯金ハ一回金十錢以上トス
貯金ノ利息ハ毎年六月及十二月之ヲ元本ニ組入ルルモノトス

第四十一條 貸付金及貯金ノ利率ハ組合長理事會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム但シ其
ノ最高最低ノ限度ハ毎年總會ニ於テ之ヲ定ム

第四十二條 每事業年度ニ於ケル本組合ノ借入金額ノ最高限度及一組合員ニ對
スル貸付金額ノ最高限度ハ毎年總會ニ於テ之ヲ定ム

第五章 購買

第四十三條 本組合ニ於テ購買スル物品左ノ如シ

一 帽子原料

二 帽型帽子附屬品及製帽竝原料製造用器具機械

三 製帽竝原料製造用藥品

四 其ノ他總會ノ決議ヲ經タル物品

第四十四條 組合員ハ本組合ノ承認ヲ經ルニ非サレハ組合外ヨリ前條ノ物品ヲ
購買スルコトヲ得ス

第四十五條 組合員ニ賣却スル物品ノ代價ハ市價ヲ標準トシテ本組合之ヲ定ム

第四十六條 本組合ハ必要アルトキハ時期ヲ指定シテ組合員ニ注文物品ノ見積
代金ノ一部ヲ提供セシムルコトヲ得

第四十七條 組合員ハ本組合ヨリ物品引渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之
ヲ引取ルコトヲ要ス

第四十八條 組合員ハ物品引取ト同時ニ其ノ代金ヲ支拂フコトヲ要ス但シ本組合ニ於テ已ムコトヲ得サル事由アリト認メタルトキハ三箇月ヲ超エサル期間代金支拂ヲ猶豫スルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ百圓ニ付何錢何厘以内ニ於テ理事ノ定メタル日歩ヲ支拂フコトヲ要ス

第四十九條 本組合ハ代金支拂ノ猶豫ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

第六章 販賣

第五十條 組合員ハ本組合ノ承認ヲ經ルニ非サレハ本組合ニ委託ヲ爲サスシニ帽子ノ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條 本組合ハ何時ニテモ組合員ニ對シ其ノ生産スル帽子ノ狀況ニ關シ報告ヲ求メ又ハ調査ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 本組合ハ組合員ヨリ帽子ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク其ノ品質及

數量ヲ檢定シ受取證ヲ交付スルモノトス

品質檢定ノ方法及標準ハ豫メ總會ニ於テ之ヲ定ム

本組合ハ種類及品位ノ同一ナル帽子ハ之ヲ混合シテ賣却スルコトヲ得

第五十三條 組合員ハ其ノ賣却セムトスル帽子ニ付其ノ代價賣却ノ時期及方法等ヲ指定スルコトヲ得ス

第五十四條 組合員ハ本組合ニ帽子ヲ引渡シタル後ハ何時ニテモ其ノ代金ノ假渡ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ額ハ帽子ノ鑑定價格ノ十分ノ七以内トス

前項ノ假渡金ニ對シテハ百圓ニ付何錢何厘以内ニ於テ理事ノ定メタル日歩ヲ支拂フコトヲ要ス

第五十五條 本組合ニ於テ販賣シタル帽子ノ代金ハ現金ヲ受取リタルト否トニ拘ラス毎月末各品等ニ付之ヲ計算シ翌月五日迄ニ委託セラレタル帽子ノ品等數量ニ應ジテ之ヲ分配スルモノトス

假渡金ハ前項ノ場合ニ於テ清算ス

第五十六條 本組合ニ於テ委託販賣ノ爲帽子ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ月ニ

於テ之ヲ賣却スヘシ但シ其ノ月ニ於テ賣却スルコト能ハサルモノアルトキハ其ノ後ニ賣却シタル同品等ノ帽子ノ代金中ヨリ先ツ其ノ代金ヲ分配スヘキモノトス

第五十七條 本組合ハ組合員ニ拂渡ス可キ帽子ノ賣却代金中ヨリ總會ニ於テ定メタル一定ノ手数料ヲ徴收スルモノトス

第五十八條 本組合ニ於テ荷造運搬其ノ他特殊ノ費用ヲ要シタル帽子ニ付テハ別ニ其ノ實費ヲ徴收スルモノトス

第五十九條 本組合ニ於テ帽子ヲ受取リタルトキハ其ノ後ニ於ケル危險ハ本組合ニ於テ負擔スルモノトス

第七章 積立金及剩餘金處分

第六十條 本組合ハ出資總額ト同額ニ達スルマテ毎年事業年度ニ於ケル剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルモノトス

第六十一條 加入金過怠金及第七十七條ノ規定ニ依リ拂戻ヲ爲シタル持分ノ殘

額ハ之ヲ準備金ニ繰入ルルモノトス

第六十二條 剩餘金ヨリ準備金ニ積立ツヘキ金額ヲ控除シタル殘額ノ少クトモ二分ノ一ハ特別積立金ニ繰入ルルモノトシ殘餘ノ部分ハ之ヲ配當金ト爲スコ

トヲ得但シ總會ノ決議ニ依リ其ノ一部ヲ報酬又ハ賞與ト爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 特別積立金ハ損失填補ニ充當スルノ外總會ノ決議ニ依リ臨時支出ニ處分スルコトヲ得

第六十四條 準備金、特別積立金及餘裕金ハ總會ノ承認ヲ經タル銀行ニ預入レ若ハ國債證券ヲ買入ルルノ外之ヲ他ニ利用スルコトヲ得ス但シ總會ノ承認ヲ經テ事業資金ニ融通スルハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條 剩餘金ハ準備金及特別積立金ニ積立ツヘキ金額ヲ控除シタル後ニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第六十六條 配當金ハ拂込出資額ニ應シテ分配スルモノトス

配當金ノ率ハ毎年總會ニ於テ定ム但シ一割ヲ超ユルコトヲ得ス

第八章 加入及脱退

第六十七條 本組合ニ加入セムトスル者ハ申込書ニ加入金ヲ添へ組合ニ差出スコトヲ要ス但シ加入金額ハ總會ニ於テ之ヲ定ムルモノトス
 本組合ニ於テ前項ノ申込ヲ承諾シタルトキハ其ノ旨加入者ニ通知シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後組合員名簿ニ記載スルコトヲ要ス
 加入效力ハ第六十八條第三項第七十一條及第七十五條ノ場合ヲ除クノ外出資第一回ノ拂込ト同時ニ發生スルモノトス
 第六十八條 加入豫約ノ申込アリタルトキハ本組合ハ其ノ許否ヲ決シ申込人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス
 加入豫約者ハ其ノ貯金額カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ニ達シタルトキハ當然本組合ニ加入シタルモノトス此ノ場合ニハ第一回ノ拂込ヲ爲サシメサル外第六十七條第二項ヲ準用ス
 前項ノ場合ニハ加入豫約者ノ貯金ハ其ノ全部ヲ以テ出資拂込ニ充當シタルモ

ノトス

第六十九條 加入豫約者ノ貯金ハ他ニ之ヲ讓渡シ又ハ加入豫約取消ノ場合ヲ除クノ外之カ拂戻ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

第七十條 加入豫約者カ第七十六條第二號第三號ニ該當スル行爲アリタルトキハ理事會ノ決議ニ依リ豫約解除ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 組合員カ其ノ持分ヲ讓渡サムトスルトキハ本組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス其ノ持分ヲ讓受ケムトスル者カ組合員ニ非サルトキハ加入金及出資ノ拂込ヲ爲サシメサルノ外第六十七條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第七十二條 組合員ハ持分ノ讓受ニ因ルノ外組合ノ承認ヲ經テ出資増口ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 組合員カ本組合ヲ脱退セムトスルトキハ少クトモ其ノ事業年度六箇月前ニ豫^其ノ旨ヲ本組合ニ豫告スルコトヲ要ス

第七十四條 組合員カ本組合ヲ脱退シタルトキハ其ノ負擔セル債務ニ付テハ當然辨濟期限到達スルモノトス

第七十五條 組合員カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ被相續人ノ持分ヲ承繼スルコトヲ得但シ組合員タル資格ヲ有セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ手續ハ相續人ニ於テ遲滯ナク之ヲ行フコトヲ要ス

第七十六條 組合員カ左ノ事由ノ一ニ該當スルトキハ本組合ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ除名スルコトヲ得

- 一 出資ノ拂込、過怠金ノ納付、貸付金ノ辨濟又ハ利息ノ支拂ヲ怠リ期限後一箇月内ニ其ノ義務ヲ履行セサルトキ
 - 二 本組合ノ事業ヲ妨クト認ムル行爲アリタルトキ
 - 三 犯罪其ノ他ノ行爲ニ因リ信用ヲ失ヒタルトキ
- 第七十七條 脱退シタル組合員ノ持分ノ拂戻ハ其ノ事業年度末ニ於ケル財産ノ狀況ニ應シテ之ヲ爲ス但シ前條ノ場合ニ於テハ出資拂戻額ニ止ムルコトヲ得

第九章 解散

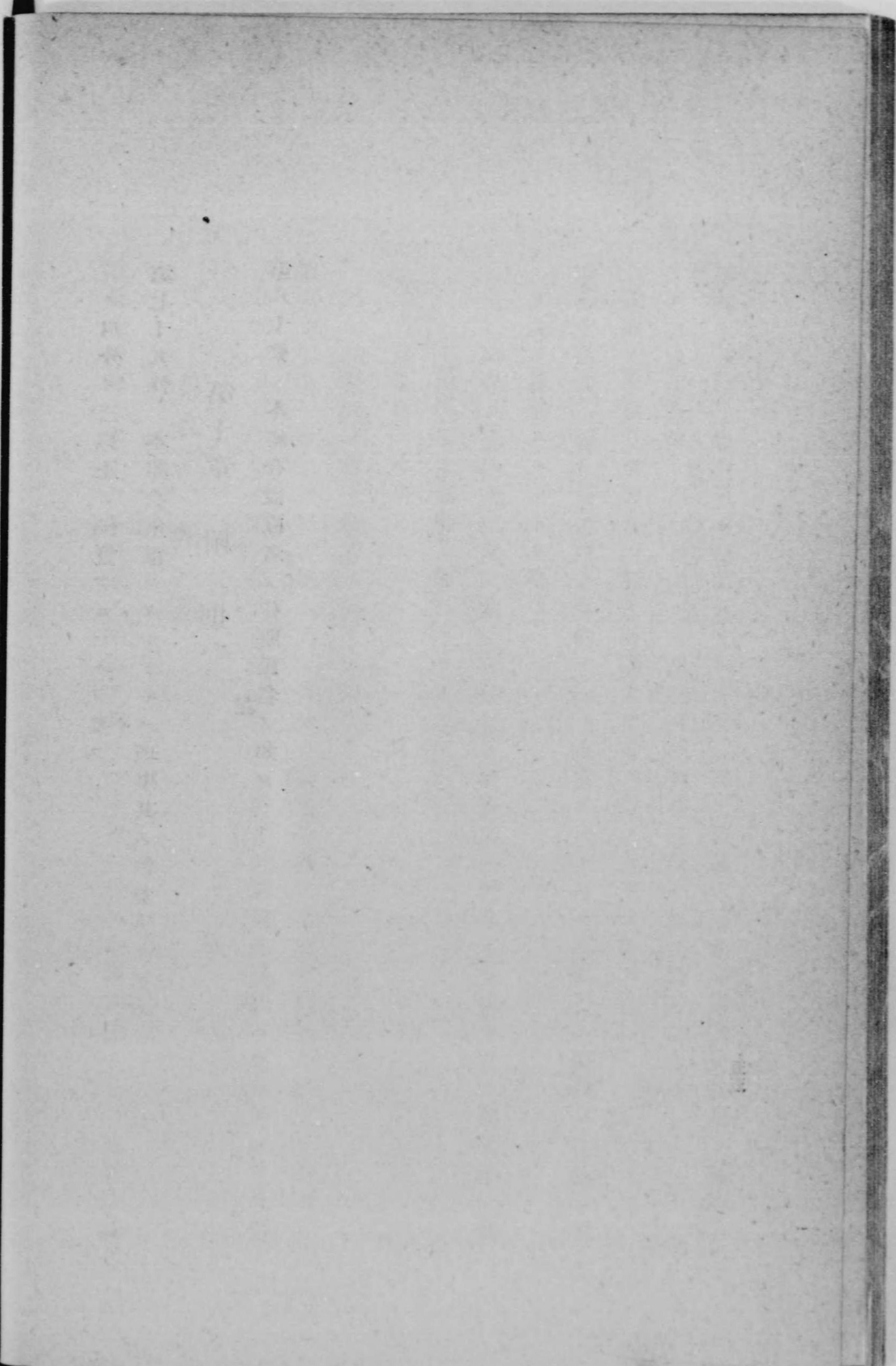
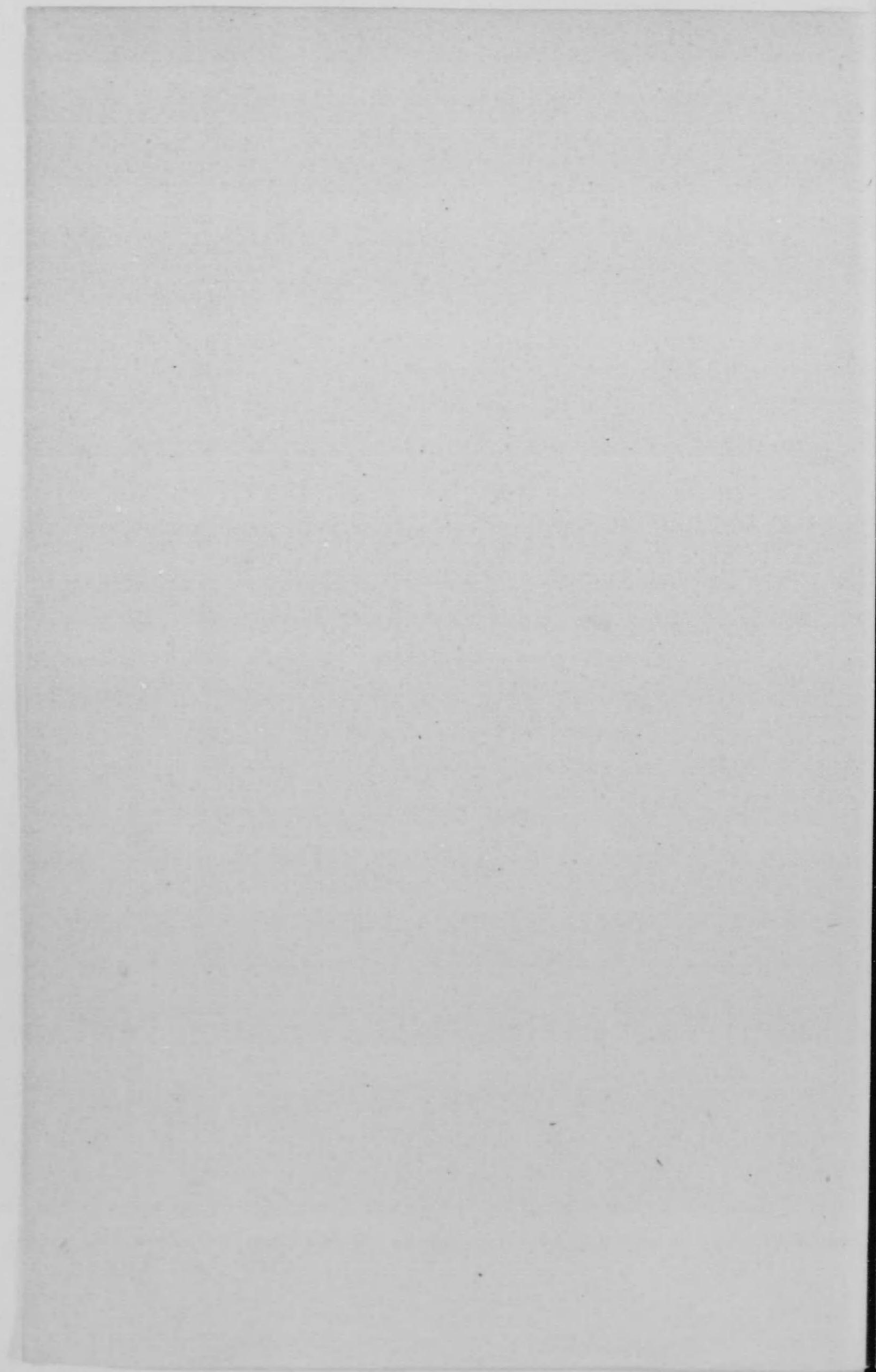
第七十八條 本組合カ解散ノ決議ヲ爲スニハ組合員ノ半數以上ニシテ總表決權

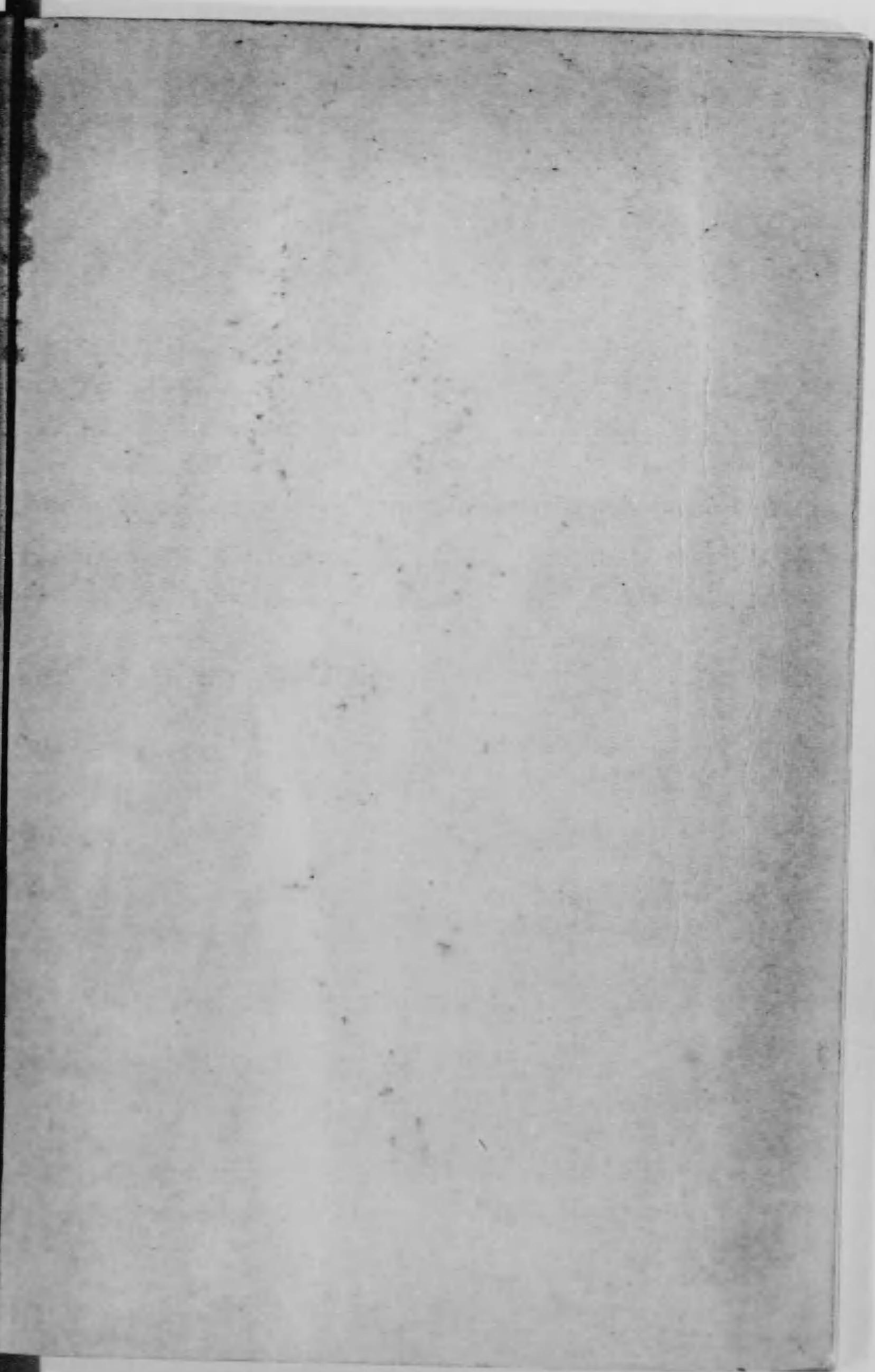
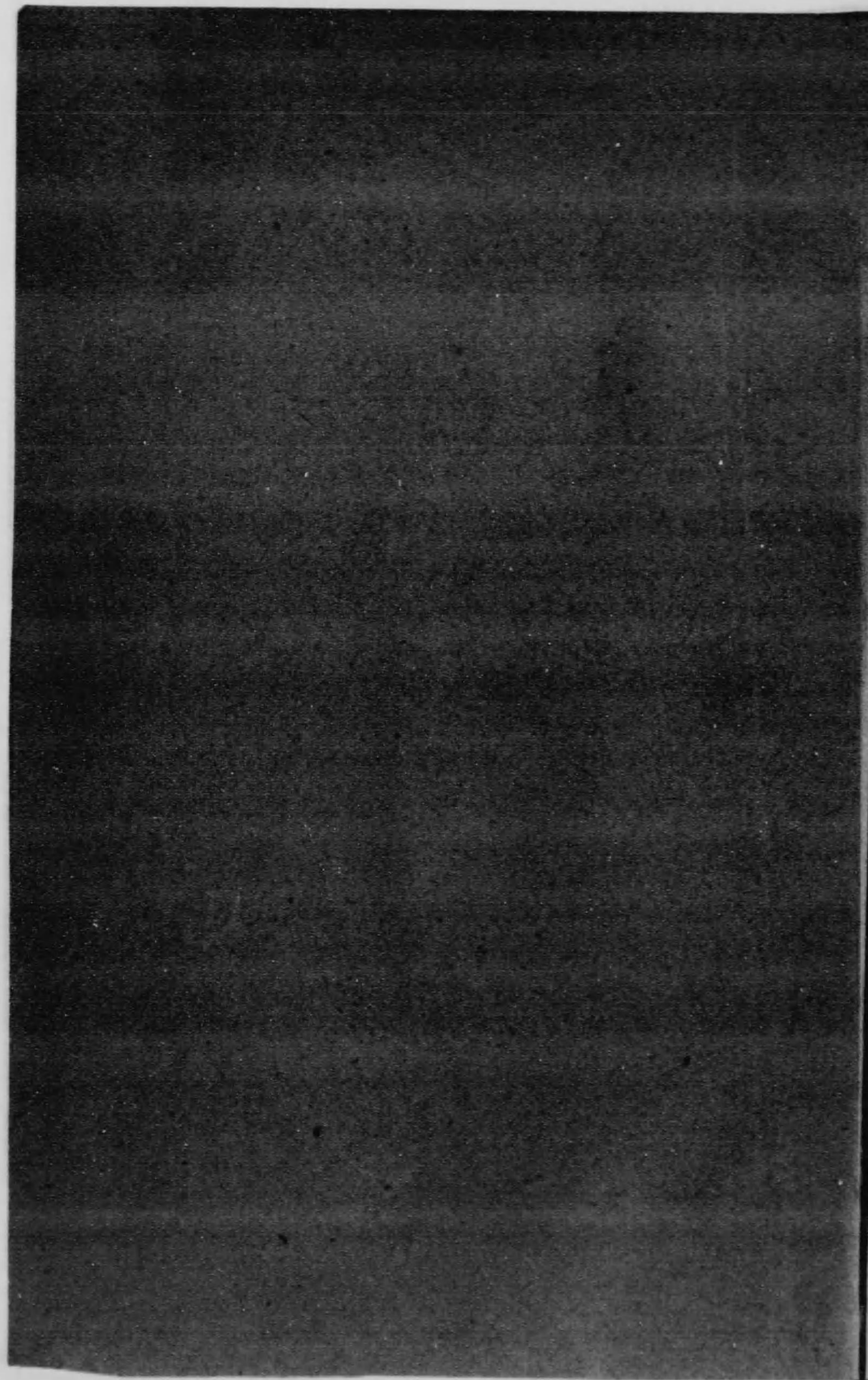
ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第七十九條 本組合解散シタルトキハ理事其ノ清算人トナル

第十章 附則

第八十條 本組合設立者ノ住所氏名^左ノ如シ





376
64

終